平成３１年度　研究紀要　目次

Ⅰ研究の概要
　１　研究テーマ・サブテーマ
　２　研究テーマ及びサブテーマ設定の理由
　３　研究テーマ・サブテーマのとらえ方
　４　研究テーマの目標
　５　目指す子ども像と育てたい力
　６　研究の視点
　７　研究内容と方法
　８　研究組織
　９　研究構想図
　１０　研究経過

Ⅱ研究実践
　１　外国語活動ブロック（概要・ 授業実践・成果と課題）
　２　外国語科ブロック（概要・授業実践・成果と課題）
　３　授業づくり（相川スタイル）
　４　環境づくり（外国語活動室）
　５　一人一実践

Ⅲ研究のまとめ

研究同人

平成３１年度
相川小学校　校内研究の概要

１　研究テーマ・サブテーマ

進んで考え　豊かに表現する子どもの育成

～伝え合う必然性のある言語活動を通して～

２　研究テーマ及びサブテーマ設定の理由

（1）社会的課題と要請から

平成29年6月，文部科学省から新学習指導要領の解説が公表された。総則編には，これからの時代が，「生産年齢人口の減少，グローバル化の進展や絶え間ない技術革新等により，社会構造や雇用環境は大きく，また急速に変化しており，予測が困難な時代となる」ことが記されている。

児童の現状は，「学ぶことと自分の人生や社会とのつながりを実感しながら，自ら能力を引き出し，学習したことを生活や社会の中の課題解決に生かしていくという面に課題を残す」と言われている。グローバル化する社会において，児童が自己の能力を発揮し社会に貢献するためには，基礎的・基本的な知識・技能の習得やそれらを活用して課題を見いだし，解決するための思考力・判断力・表現力等が必要である。つまり「何を知っているか」だけでなく，それを使って「何ができるか」が重要なのである。

今回の改訂の要点として，グローバル化に対応すべく，小学校第３．４学年に「外国語活動」が，第５．６学年に「外国語科」が新設された。「児童が将来どのような職業に就くとしても，外国語で多様な人々とコミュニケーションを図ることができる能力は，生涯にわたる様々な場面で必要とされることが想定される」からである。言語能力を高め，多様な人々とコミュニケーションを図ることができる基礎的な力[1]の育成と，多様な文化や価値観を持つ人々との出会いや交流の機会により，外国語をコミュニケーションツールとして生かしながら主体的で体験的な理解を導き，生きて働く表現力の育成が必要とされている。

以上のような社会的な課題（特にグローバル化への対応）や学校教育への要請を踏まえ，「知識・技能」のみならず，外国語を「どのように使うか」，外国語を通して「どのように社会・世界と関わり，よりよい人生を送るか」といった観点から，「思考力・判断力・表現力等」，「学びに向かう力・人間性等」もバランス良く育成を目指していくことは，今日的課題でもあり，研究を進める必要性があると考える。

---

[1]コミュニケーション能力については様々な考え方があるが，ワーキンググループにおける議論においては，外国語教育における特質に配慮しながら，外国語によるコミュニケーション能力について，「外国語やその背景にある文化に対する理解を深め，他者を尊重し，聞き手・読み手・話し手・書き手に配慮しながら，外国語を通じて，身近な話題から社会や世界，他者との関わりの中で幅広い話題について，情報や考えなどを的確に理解したり適切に伝え合ったりすることができる能力」として整理している。

（2）学校教育目標の具現化から

学校教育目標 「つよく　かしこく　うつくしく」 具体目標 〇健康で，最後までやりぬく子ども 〇自ら学び，進んで物事を解決しようとする子ども 〇思いやりがあり，自他にやさしく心豊かな子ども

学校教育は，変化の激しい社会に主体的に関わり，感性を豊かに働かせながら，目的を自ら考え，自らの可能性を発揮できる力を身に付けられるような「生きる力」の育成が求められている。本校のめざす具体目標のうちの一つ，「自ら学び，進んで物事を解決しようとする子ども」は，まさしく自ら学び，考えるという主体的な態度を養い，習得した知識・技能を活用することを通して，物事を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等の育成を目指している。

学校教育目標の具現化に向けて，今年度も「進んで考え　豊かに表現する子どもの育成」をテーマに研究していくことが必要であると考えた。

（3）研究の経過から

本校では，平成29年度から新学習指導要領導入に向けた研究を行ってきた。平成29年度は，それまでの本校の実践と甲府市から提案された『甲府スタイルの授業』を合致させ「学びの深まりを大切にした学習活動の工夫」を意識し，学びの深まりを導くための授業改善を行った。それとともに，「深い学び」・「道徳」・「外国語」の理論研究も行い，両方の面から，児童の思考力・判断力・表現力等を育むための実践をしてきた。

昨年度は，その中から「外国語」に焦点を当て研究を行った。新学習指導要領全面実施を見据え，教師はまず，やってみる，慣れる，課題を見つけることを目標とし，外国語教育の核となる「言語活動」を通して児童の思考力・判断力・表現力等を育むための実践に努めた。実践を積み重ねる中で，伝え合う必然性のある場面や活動の設定を行うことが，意欲的にコミュニケーションを行う鍵になることが見えてきた。

今年度は，「進んで考え　豊かに表現する子ども」を育成するために，伝え合う必然性のある言語活動を手立てとして，授業づくりの在り方を研究していく必要があると考える。

（4）児童の実態から

昨年度，①主体的に学ぶ姿　②相手意識をもち，人と関わり学び合う姿　③自己実現しようとする姿を目指し，実践してきた。それらの実践から見えた課題は以下の通りである。

<u>Ⅰ主体的に学ぶ姿について</u>

【中】・英語への抵抗感がある児童がいる。

【高】・慣れ親しみにも個人差が出てしまう。

必然性ある活動で英語への抵抗感をなくすこと。誰でも十分に慣れ親しませることの必要性。

<u>Ⅱ相手意識を持ち，人と関わり学び合う姿について</u>

【中】・相手意識（相手が聞きたいことを考え，理解しやすいように伝える気持ち）をもち，学び合うところまでは達していない。

・聞き取ることが不十分であり，ただ伝えるのみに終止してしまっている。

【高】・他の場面でもコミュニケーションが難しい児童にとって，外国語でも伝え合いはハードルが高い。

・発語に抵抗がある児童がいる。

必然性ある活動で相手意識(相手が聞きたいことを考え,理解しやすいように伝える気持ち)を持たせる

Ⅲ自己実現しようとする姿について

【中】・自己実現・達成感を味わわせるためには，場の設定と練習量の確保が必要である。

【高】・苦手意識を保つ児童は簡単な表現を選ぶ傾向にある。

・コミュニケーションの楽しさを味わっている段階であり，自分の思いを伝えるところまでは達していない。

必然性ある活動で自分の思いを伝えたくなる

以上「**社会的課題と要請**」，「**学校教育目標の具現化**」，「**研究の経過**」，「**児童の実態**」から，研究テーマを「進んで考え　豊かに表現する子どもの育成」，サブテーマを「伝え合う必然性のある言語活動を通して」と設定し，研究を深めていく。

これまでの研究で育んできた児童の思考力・判断力・表現力等を，継続した取組の中でさらに高めていけるよう，テーマの具現化を図る。

3　研究テーマ・サブテーマのとらえ方

（1）テーマ「進んで考え　豊かに表現する子ども」について

『小学校学習指導要領(平成29年告示)』で示す外国語教育における目標は，

外国語活動　(中学年)

外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ，外国語による聞くこと，話すことの言語活動を通して，コミュニケーションを図る素地となる資質・能力を次の通り育成することを目指す。

⑵身近で簡単な事柄について，外国語で聞いたり話したりして，自分の考えや気持ちなどを伝え合う力の素地を養う。(思考力・判断力・表現力等に関わる目標)

外国語　(高学年)

外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ，外国語による聞くこと，読むこと，話すこと，書くことの言語活動を通して，コミュニケーションを図る基礎となる資質・能力を次の通り育成することを目指す。

⑵コミュニケーションを行う目的や場面，状況などに応じて，身近で簡単な事柄について聞いたり話したりするとともに音声で十分に慣れ親しんだ外国語の語彙や基本的な表現を推測しながら読んだり，語順を意識しながら書いたりして，自分の考えや気持ちなどを伝え合うことができる基礎的な力を養う。(思考力・判断力・表現力等に関わる目標)　(下線は研究主任による)

のように，自分の考えや気持ちなどを伝え合う力の素地(伝え合うことができる基礎的な力)である「コミュニケーションを図る素地(基礎)となる資質・能力の育成」することである。

そのことから，「進んで考え　豊かに表現する子ども」を，外国語教育においては，「主体的にコミュニケーションを図ろうとする子ども」と捉えることができる。

「進んで考え　豊かに表現する子ども」
＝「主体的にコミュニケーションを図ろうとする子ども」

また，働かせるべき「見方・考え方」とは，『小学校学習指導要領(平成29年告示)解説』によると，外国語によるコミュニケーションの中で，どのような視点で物事を捉え，どのような考え方で思考していくのかという，物事を捉える視点や考え方であり，

外国語で表現し，伝え合うために，外国語やその背景にある文化を，世界や社会，他者との関わりに着目して捉え，コミュニケーションを行う目的，場面，状況等に応じて，情報や自分の考えなどを形成，整理，再構築すること。

と明記されている。その「見方・考え方」の視点と併せ，「進んで考える」「豊かに表現する」ということを，それぞれ下記のように具体化した。

○「進んで考える」ということ
・対話[2]から，必要な情報を見つけ取り出すことができる。
・取り出した情報と既習の学習内容を関連づけることができる。

○「豊かに表現する」ということ
・自分の考えを言葉やジェスチャーなど様々な方法を使って他者に伝える事ができる。
・目的意識や相手意識を持って，やりとりすることができる。

（2）サブテーマ「伝え合う必然性のある言語活動」について

言語活動について，『小学校外国語活動・外国語　研修ガイドブック』では，

「外国語活動」や「外国語」の目標の中で，コミュニケーションを図る素地・基礎となる資質・能力を育成するのは「言語活動を通して」とされており，言語活動は外国語活動や外国語科において核である。

と明記されている。

外国語教育における言語活動とは,「実際に英語を用いて」「互いの考えや気持ちを伝え合う」ものだが，主体的にコミュニケーションを図ろうとする児童を育成するためには，言語活動をより具体的に絞って捉えていく必要があると考えた。そこで今年度は，昨年度の課題から，**「伝え合う必然性」**のある言語活動に焦点を当て，より効果的に思考力・判断力・表現力等を高めていきたい。

「伝え合う」ことへの意欲が高まるような必然性のある言語活動を仕組むことにより，児童は主体的に「どのように伝えるか」「どうすればより伝わるか」という思考を働かせられるようになると考える。伝え合う必然性のある言語活動を充実させるために，①コミュニケーションの目的や場面，状況が明確で，教師と児童がそれを共有していること，②児童が誰に何のために自分の考えや気持ちを伝え合うかを十分に意識できる場面設定や題材であること，を意識したい。その中で，児童が興味・関心がある題材，具体的で身近に感じられる題材を設定し，「習った表現を使ってみたい！」と思える場面・目的を作り出したい。そして体験を伴いながら簡単な語句や基本的な表現を使っての言語活動を目指していきたい。

[2] ここでいう「対話」とは，友達との言葉の交流だけでなく，情報や価値観を共有していない相手との言葉による交流も含む。

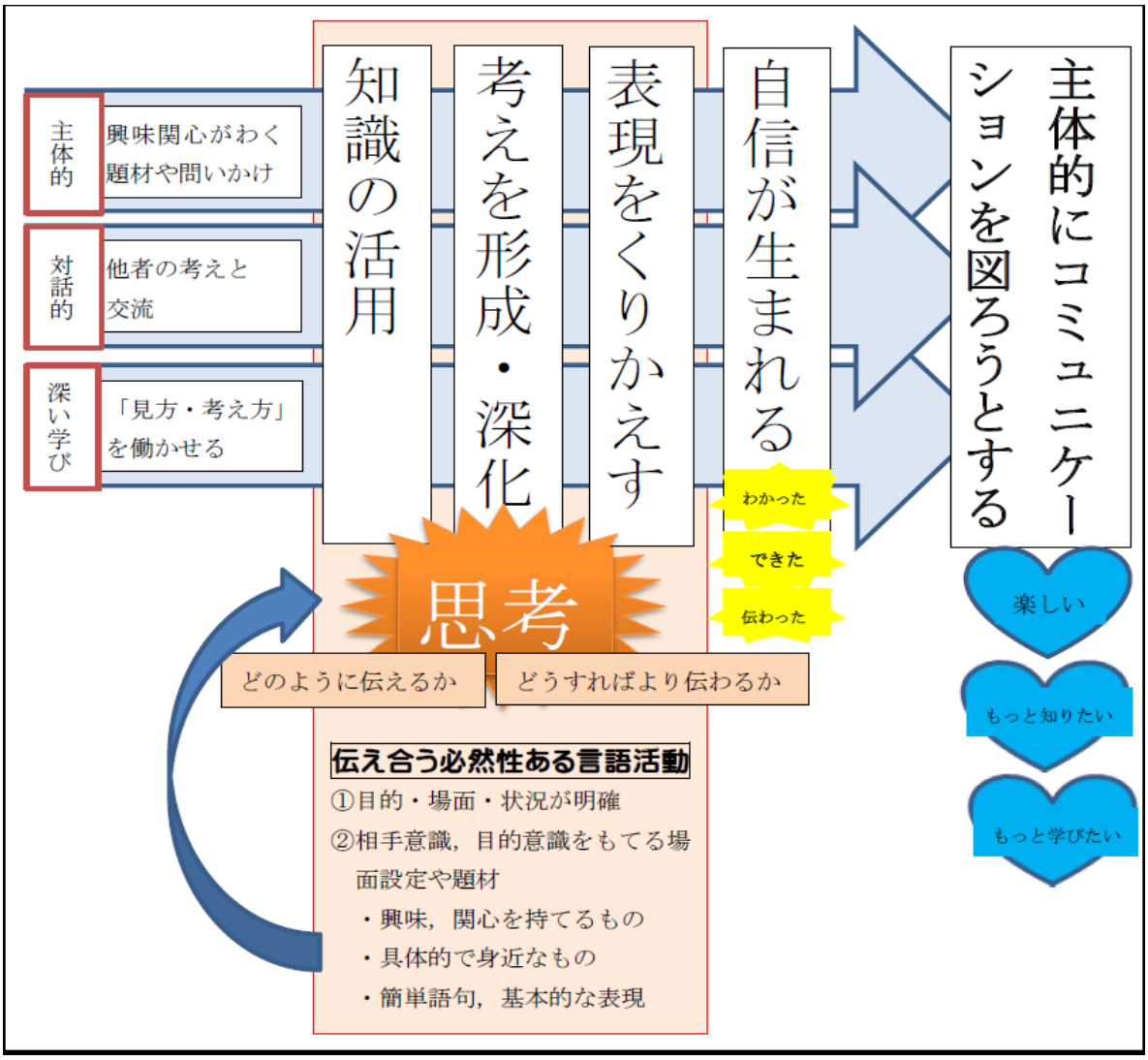
言語の働きには，「コミュニケーションを円滑にする」「気持ちを伝える」「事実・情報を伝える」「考えや意図を伝える」「相手の行動を促す」などがある。

目的・場面・状況に応じて

「コミュニケーションを円滑にする」ための挨拶やリアクションを行う必然性のある場面設定や題材，
「気持ちを伝える」必然性のある場面設定や題材，
「事実・情報を伝える」必然性のある場面設定や題材，
「考えや意図を伝える」必然性のある場面設定や題材，
「相手の行動を促す」必然性のある場面設定や題材

を，具体的に考えていくことで，意味のあるやり取りになり，互いの心を通わすことの大切さを意識したり，その楽しさを実感したりできると考える。

（イメージ図）



4　研究の目標

伝え合う必然性のある言語活動を仕組むことで，主体的にコミュニケーションを図ろうとする（進んで考え，豊かに表現しようとする）児童を育む授業の在り方を明らかにする。

5　目指す子ども像と育てたい力

伝え合う必然性のある言語活動を通して

〇外国語に慣れ親しみ，様々な活動に興味関心を持てる子ども（主体的に学ぶ力）

〇人とコミュニケーションを図り，学び合う子ども（相手意識を持ち，人と関わり学び合う力）

〇自分の思いを伝えられ，達成感を感じられる子ども（自己実現しようとする力）

学び合い？→「見方・考え方」を働かせて… 「やり取り」「教え合い」などを通して ・知らなかった情報に気付き，取り出す。 （Imformation gap 与える） ・既習事項と関連付けて自分の考えを持つ。 ・友だちの表現方法に気付く。 ・自分の考えを様々な方法で発信したり表現したりする。 ・相手が聞きたいことを考え，理解しやすいように伝える。　など	自分の思い？→本物のやりとり 「学び合い」「必然性ある言語活動」などを通して ・うそじゃない本当のこと。 ・場面・状況の中で伝えたいこと，思っていること。 ・相手の話に対しての，真のリアクション。 など

ただし，外国語活動と外国語では，話すこと（やり取り）の目標が違うので，学年ごとに目指す姿を捉え直す必要がある。

小学校学習指導要領(平成 29 年告示)　１目標　話すこと〔やり取り〕

外国語活動　（中学年）

ア　基本的な表現を用いて挨拶，感謝，簡単な指示をしたり，それらに応じたりするようにする。

イ　自分の事や身の回りの物について，動作を交えながら，自分の考えや気持ちなどを，簡単な語句や基本的な表現を用いて伝え合うようにする。

ウ　サポートを受けて，自分や相手のこと及び身の回りに関する事柄について，簡単な語句や基本的な表現を用いて質問したり質問に答えたりするようにする。

外国語　（高学年）

ア　基本的な表現を用いて指示，依頼をしたり，それらに応じたりすることができるようにする。

イ　日常生活に関する身近で簡単な事柄について，自分の考えや気持ちなどを，簡単な語句や基本的な表現を用いて伝え合う事ができるようにする。

ウ　自分や相手のこと及び身の回りの物に関する事柄について，簡単な語句や基本的な表現を用いてその場で質問をしたり質問に答えたりして，伝え合うことができるようにする。　（下線は研究主任による）

6　研究の視点（目指す子ども像に近づくための手立て）

(1)目的・場面・状況を意識した言語活動　←フォーカスをあてるもの

(2)目標を見据えた指導

(3)本物のやりとりを大切にした授業

(4)無理のないステップを踏んだ指導

7　研究内容と方法

内容	方法
(1)授業づくりと実践 ①「伝え合う必然性ある言語活動」の具体例を探る。 ②研究の視点(1)～(4)を取り入れる。 ③新教材の特性を生かす。 ④資質・能力の3つの柱 「知識・技能」 「思考力・判断力・表現力等」 「学びに向かう力・人間性等」 の関係性を取り入れる。	(1) について ・指導主事を招聘 ・全体研究会／ブロック研究会 ・一人一実践 ・低学年は毎週水曜日おはようタイムを外国語活動の「時間にあてる。また給食・清掃の時間帯にALTとふれあうことで，日常的に，慣れ親しめる機会を設けていく。
(2)学びの支えになる教具の作成と環境づくり ①Unitごとに必要な教具の作成 ②外国語活動教室 ③校内表示	(2)について ・機能別ブロック研究会にて作成，整理 ・授業で作成した物のストック
(3)教師の資質向上	(3)について ・校内における外国語の授業への積極的な参観 ・研修会への参加 ・クラスルームイングリッシュの積極的な活用 ・ALTとのTT実践，打ち合わせ
(4)評価 ①パフォーマンス評価のやり方 ②ルーブリックの作成	(4)について ・実践しながらUNITごとに作りためていく。

8　研究組織

研究推進委員会

校長　教頭　教務主任　◎研究主任　○研究副主任　●研究推進委員

全 体 会

外国語活動ブロック

●教頭T　池谷T　○岩下T　小澤裕T
◎保坂　村松T　丹澤T　小澤彩T　浅利T
岡田T　手塚T　高鳥T　秋山T

外国語科＊ブロック

●校長T　●乙黒T　弦間T　●岩間T
河西T　鷹野T　小笠原T　保坂麻T
戸島T　高野T　小田切T　芦澤T

＊ここでいう外国語科とは，来年の完全実施を見据えて，外国語科の内容について研究するという趣旨で位置づけたものである。

機能別部会	教材づくり	環境づくり
中学年	教頭T　池谷T　小澤裕T　保坂　村松T　丹澤T ☆小澤彩T　岡田T　手塚T	☆岩下T　浅利T　秋山T 高鳥T
高学年	校長T　乙黒T　弦間T　岩間T　☆河西T　鷹野T 保坂麻T　小笠原T	戸島T　高野T　芦澤T 小田切T

※全国公開に向けた，運営準備（全体運営，授業環境・教材など）については，仕事内容を研究推進委員会で検討・分担し，提案する。

１０　研究構想図

山梨県学校教育基本目標

個性を生かし，生きる力をはぐくむ「やまなし」人づくり

甲府市学校教育指導重点

○「生きる力」を育む教育課程の編成
○確かな学力の育成
○「思い遣る心」を育む生徒指導の推進
○健康・体力の向上
○信頼される学校づくりの推進

学校教育目標

つよく　かしこく　うつくしく

具体目標

○健康で最後までやりぬく子ども
○自ら学び，進んで物事を解決しようとする子ども
○思いやりがあり，自他にやさしく心豊かな子ども

本校児童の外国語教育における実態

・英語への抵抗感をなくす必要性がある。
・誰でも十分に慣れ親しませることの必要性がある。
・相手意識（相手が聞きたいことを考え、理解しやすいように伝える気持ち）を持たせる必要性がある。
・自分の思いを伝えられる必要性がある。

新学習指導要領の趣旨

「生きる力」の育成

○確かな学力
・知識及び技能の習得
・思考力、判断力、表現力等の育成
○豊かな心
○健やかな体
●「何のために学ぶのか」
●「何ができるようになるか」（育成を目指す資質・能力）
・「知識，技能」
・「思考力，判断力，表現力等」
・「学びに向かう力・人間性等」
●「どのように学ぶか」
・主体的・対話的で深い学び

研究主題

進んで考え　豊かに表現する子どもの育成

～　伝え合う必然性のある言語活動を通して　～

「進んで考える」ということ
○対話から，必要な情報を見つけ取り出すことができる。
○取り出した情報と既習の学習内容を関連づけることができる。

「豊かに表現する」ということ
○自分の考えを言葉やジェスチャーなど様々な方法を使って他者に伝える事ができる。
○目的意識や相手意識を持って，やりとりすることができる。

目標

伝え合う必然性のある言語活動を仕組むことで，主体的にコミュニケーションを図ろうとする（進んで考え，豊かに表現しようとする）児童を育む授業の在り方を明らかにする。

表現力

思考力　　判断力　等

外国語活動ブロック
・授業づくりと実践
・学びの支えになる教具の作成と環境づくり
・教師の資質向上
・評価

外国語科＊ブロック
・授業づくりと実践
・学びの支えになる教具の作成と環境づくり
・教師の資質向上
・評価

機能別部会		
	教材づくり	Unit ごとの教材づくり
	環境づくり	外国語活動教室　校内　環境づくり

１１　研究経過

月	日	曜日		内　容
４	１８	木	第１回推進委員会	・平成３１年度校内研究の概要及び方向性について検討
５	２７	月	①　全体会	・平成３１年度校内研究の概要及び方向性について提案 (研究テーマ・サブテーマの捉え方について) ・全小英山梨大会について
６	３	月	②全体会 ブロック研 機能別	・ブロック別　指導案検討・授業参観準備 ・機能別活動の見通し ・パワーアップ作戦について
	２４	月	②　全体会	・指導主事招聘 学習会（必然性についての具体と指導案ご指導）
７	１６	火	④全体会 ブロック研	・18日授業内容について ・直山視学官授業参観に向けての準備とALTとの打ち合わせ
	１８	木		・直山木綿子視学官　来校 ３－２，６－１授業参観　ご指導
	２５	木	⑤全体会 ブロック研 機能別	・18日授業還流報告 ・校長先生の学習会 ・大会本番に向けての授業内容検討 ・教材作成　環境整備
８	２１	水	⑥全体会 ブロック研	・教育課程環流報告 ・指導主事招聘： 各ブロック大会本番指導案検討会
９	１７	火		・直山木綿子視学官　指導案検討会
１０	３	木	⑦ブロック研	・直山視学官ご指導内容還流報告 ・各ブロック　指導案見直し
１０	２１	月	⑧全体会	・大里弘美准教授　来校 ３－２，６－１授業参観 学習会　授業についてのご指導
１１	２２	金	第２回推進委員会	・研究紀要作成と今度の日程について
１２	２３	月	⑨全体会 ブロック研	・研究紀要作成について ・アンケートについて ・外国語リーダー研修会　環流報告 ・成果と課題の明確化
１	１４	火	⑩ブロック研	・大会本番に向けての準備
１	２４	金		・ビデオ撮り ３－２，６－１
２	７	金		・全小英山梨大会　研究会 ３－２，６－１授業公開
２	２５	火	⑪全体会	・まとめ ・新評価について　還流報告 （直山視学官からのご指導）

【参考文献】

・直山木綿子『初等教育資料５月号外国語活動・外国語科における言語活動の充実を図った授業づくり』
2019　東洋館出版
・大城　賢『新学習指導要領が求める言語活動』英語教育セミナーin 東京テキスト　2019
・桑畑秀子『小学校外国語教育の動向について』
平成30年度山梨大学小学校外国語教科化に向けた公開講座テキスト2019
・赤井大悟『初心者のための外国語授業講座』
全員参加の授業づくり教材研究&指導アイディアセミナーテキスト　2019
・全小英山梨大会研究部『全国小学校英語教育実践研究会山梨大会に向けて　大会テーマと研究トピック』資料
2019
・菅　正隆『Let's Try1&2 の授業&評価プラン』2018　明治図書
・直山木綿子『初等教育資料４月号　新学習指導要領の全面実施に向けて　外国語活動・外国語科』
2018　東洋館出版
・金城太一『初等教育資料２月号　小学校外国語教育のこれまでとこれから』2018　東洋館出版
・直山木綿子『初等教育資料２月号　新しい教科　高学年外国語科』　2018　東洋館出版
・文部科学省『小学校外国語活動・外国語　研修ガイドブック』平成29年
・文部科学省『小学校学習指導要領　解説　総則』　平成29年６月
・文部科学省『小学校学習指導要領　解説　外国語活動編』　平成29年７月
・文部科学省『小学校学習指導要領　解説　外国語編』　平成29年７月
・教育課程課　『初等教育資料３月号　教育課程改定の方向』　2017　東洋館出版
・中央教育審議会教育過程特別部会『論点整理（報告）第７期』2015
・国立教育政策研究所『資質・能力　理論編』2016 東洋館出版
・中央教育審議会『幼稚園，小学校，中学校，高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善
及び必要な方策等について（答申）』　2016
・文部科学省『小学校学習指導要領』　平成29年３月

外国語活動ブロックの研究

（１）概要

外国語活動の先行実施に伴い,年間 35 時間の授業を行うこととなった。「進んで考え，主体的に表現する子どもの育成」を,日常的な授業の中で達成できるような授業作りに取り組むこと，また,「Let’s　try！１」「Let’s　try！２」の全 Unit で使う教材を作成することを中心に研究を進めた。

【研究テーマに関して】

研究テーマである「進んで考え，豊かに表現する子どもの育成」に向けて「伝え合う必然性のある言語活動」を仕組むことは，子供たちの生きたコミュニケーション能力を育成することである。「本物のやり取り」により，インフォメーションギャップを埋めながら，子供たちは驚き，新たな発見をする。このことが，コミュニケーションへの意欲となり，進んで考え，豊かに表現する子どもの育成に迫ることになると考えた。

特に３年生は教科として外国語活動と初めて出会うことになる。日常生活や他教科において自己表現を得意としない子供にとって，表現の手段としての外国語活動が負担にならないような配慮が必要になる。そこで英語表現のインプットを大切にし，繰り返し表現に慣れ親しませることを丁寧に行うことにした。また，教え合う・学び合う雰囲気を学級に作ることで安心して発語できる環境を整えようと考えた。

【研究の視点について】

「目的・場面・状況を意識した言語活動」「目標を見据えた指導」「本物のやり取りを大切にした授業」「無理のないステップを踏んだ指導」の４つの手立てをもって授業づくりをしてきた。「伝え合う必然性のある言語活動」を軸に単元全体を見通し，目指す目標を，指導者と子供が一緒に設定した。そして，そこに到達するために無理のないステップで「Today’s　Goal（その時間ごとの目標）」を設定する。子供たちの主体的な表現活動のために「本物のやり取り」にはとくに重要視し研究を重ねた。また，担任とＡＬＴが行う言語活動のモデルを最小限にとどめ，授業に自由度を高めることで，既習の表現を使ったり，新たな表現方法を考えたりできる過程を補償したいと考えた。

（２）授業実践

・公開授業指導案

第３学年　外国語活動学習指導案

指導者　　村　松　　宏　美

ALT　Woosley Daniel Earl

１　単元名

This is for you.　（Let’s Try! 1 Unit 7）

２　単元について

（１）　教材観

本単元の主なねらいは，形や身の回りにある語に出会うことと，“What do you want？”“～, please. ”の表現を使って欲しい物を尋ねたり答えたりする表現に慣れ親しむことである。児童は，これまでに Unit 3 で“heart”や“triangle”などいくつかの形を表す言語に出会っている。本単元では，さらに“square”や“rectangle”など，児童が耳慣れない語を扱う。児童が十分に聞く活動を取り入れながら，日本語と英語の音声の違いに気付くとともに，様々な形の言い方に慣れ親しませるようにしていく。友達にありがとうの気持ちを込めたカードを作り，“This is for you. ”とカードを贈る活動をゴールとして設定することで，「自分の友達に，相手が喜びそうなカードを贈ろう」という明確な相手意識や目的意識をもって児童が学習できると考える。

（２）　児童観

本学級は，男子 19 名，女子 16 名の計 35 名である。児童は第２学年の２学期から，校内研究の取り組みとして，週に 1 回，朝の学習の 15 分間を使って基本的な挨拶や英語を使ったやり取りなど，英語に慣れ親しんできた。そのため，第３学年の初めから外国語の授業を楽しみにしており，歌やチャンツ，友達とのやり取りにも積極的に参加している。しかし，その一方で，自分を表現することが苦手な児童も数名おり，「やり取り」になると個人差があることが課題である。

友だちとのかかわりに関しては，運動会や音楽集会の取り組みを通して，友達の素敵な姿を伝え合う活動をしたり，道徳では，友達のいいところを探し書きためる活動を行ったりし，心を耕してきた。また帰りの会では，ありがとうの気持ちを伝え合う活動を行っている。しかし，発表する児童が限られてしまったり，同じ相手になってしまったりすることも多い。

そこで本単元では，終末にありがとうの気持ちを伝えるためにカードを贈る活動を取り入れ，クラスの児童全員が友達に感謝の気持ちを表現できるようにしたい。既習の表現を用いたインタビューをして友達の好みを知った上で，図工の時間に自分が贈りたいと思うカードを作り，意欲的に友達への思いを伝えられるような活動にしたい。

（３）　指導観

単元のゴールには，児童の「伝えたい」という思いで展開される題材を設定し，児童の興味･関心を高めるような活動が必要である。そこで，１年間一緒に学習してきた仲間にありがとうの気持ちを込めて，グリーティングカードを贈る活動を設定する。バレンタインデーは女の子が男の子にチョコレートを贈ることが日本では一般的であるが，単元の初めに，担任とALTとの会話から，バレンタインデーの文化は日本と外国では異なることに気付かせる。また，グリーティングカードを作るために，既習表現を使って友だちの好みを知ったり，欲しい形を集めたりするという学習への見通しを持たせたい。形の言い方や欲しい物を尋ねる表現を学び，最終的には，図工の時間に作成したカードを友だちに紹介しながら贈る。友だちに喜んでもらいたいという相手意識，感謝の気持ちを伝えたいという目的意識を持たせながら，必要な表現に十分慣れ親しませたい。その上で，発話させるというスモールステップを踏むことで子どもたちが自信を持って表現できるようにしたい。

第４時の本時では，カードを作る材料を集めるためのお店屋さんごっこを行う。売り手は自分の用意した材料を「買ってもらいたい。相手の欲しい物を売りたい」という思いで売り，買い手は贈る人のことを考えて作ろうとするカードに「必要な材料をたくさん集めたい」という思いで買う。それぞれの意欲を持ちながら活動し，表現に慣れ親しむことを目指していきたい。

３　単元の目標

〇相手に伝わるように工夫しながら，自分の作品を紹介しようとする。

【コミュニケーションへの関心・意欲・態度】

〇形の言い方や，欲しいものを尋ねたり答えたりする表現に慣れ親しむ。

【外国語への慣れ親しみ】

〇形や身の回りの物について，日本語と英語の音声の違いに気付く。

【言語や文化に関する気付き】

４　評価規準

観点	コミュニケーションへの関心・意欲・態度	外国語への慣れ親しみ	言語や文化に関する気付き
評価規準	〇相手に伝わるように工夫しながら，自分の作品を紹介しようとしている。	〇形の言い方や，欲しいものを尋ねたり答えたりする表現に慣れ親しんでいる。	〇形や身の回りの物について，日本語と英語の音声の違いに気付いている。

５　単元の指導計画と評価計画

時	目標（◆）　主な活動（〇）	評　価 〇評価規準（方法）
1	◆形や身の回りの物を表す言い方を知ろう。 ①【Let’s Watch and Think】 単元の終末がちょうど２月 14 日であることから，バレンタインの行事について，日本の文化との違いを知り，指導者が作成したカードを見て，最後にカードを贈る活動への見通しをもつ。 ②p. 26, 27 にある絵や形を発表し，形や身の回りの物を表す言い方を知る。 ③【Let’s Play①】シェイプ・クイズ p. 26, 27 ・真っ黒なシルエットを見て，それが何かを当てる。 ・さまざまな形の後ろに隠れている動物が何かを当てる。	〇形や身の回りの物について，日本語と英語の音声の違いに気付いている。 （行動観察・振り返りカード点検）
2	◆形の言い方に慣れ親しみ，欲しいものを尋ねる表現を知ろう。 ①【Let’s Play②】ポインティング・ゲーム p.26, 27 ・音声で聞いた形を指す。ペアや個人で行う。 ②【Karuta Game】 ・ペアの真ん中に表向きにカードを広げ，指導者が引いたカードと同じ形のカードをとる。 ③What do you want?の表現を使って模様を作ろう。 ・担任と ALT，指導者と代表児童がさまざまな形のやり取りをして，いろいろな模様を作る。 ④【Let’s Chant】What do you want? p.27	〇形の言い方や欲しいものを尋ねたり答えたりする表現に慣れ親しんでいる。 （行動観察・振り返りカード点検）

3	◆好きなものや欲しいものを尋ねたり，答えたりしよう。 ①【Let’s Chant】What do you want? p.27 ・好きな形を使って，自由にチャンツを作る。 ②【Let’s Listen】p.29 ・音声を聞いて，誰がどの作品を作ったのかを考えて，線で結ぶ。 ③【Matching Game】 ・What do you want?と尋ね，その児童は欲しい形のカードを告げる。持っていたら渡し，なかったら他の形のカードを渡す。同じ形のカートが 2 枚揃ったら捨てていく。全ての手持ちカードがなくなればあがりとなる。 ④【Interview】 ・相手の喜びそうなグリーティングカードを作るために，好きなものや色を聞き合い，作成の準備をする。	○好きなものや欲しいものを尋ねたり答えたりする表現に慣れ親しんでいる。 （行動観察・振り返りカード点検）
4 本時	◆相手に伝わるように，欲しいものを尋ねたり答えたりしよう。 ①【Let’s Chant】What do you want? p.27 ・好きな形を使って，自由にチャンツを作る。 ②【Activity】 ・カードを作るために，相手の好みの形を集めるためのお店屋さんごっこをする。	○相手に伝わるように，欲しい物を尋ねたり答えたりしている。 （行動観察・振り返りカード点検）
5	◆自分の作ったカードを紹介して，相手に贈ろう。 ①【Let’s Chant】What do you want? p.27 ・好きな形を使って，自由にチャンツを作る。 ②【Activity】 ・自分の作ったカードを学級で紹介してから，自分のカードを相手に贈ろう。	○相手に伝わるように工夫しながら，自分の作品を紹介しようとする。 （行動観察・振り返りカード点検）

６　本時の学習

（１）目　標

○相手に伝わるように，欲しいものを尋ねたり答えたりしよう。

【外国語への慣れ親しみ】

（２）展　開

時間	児童の活動	指導者の活動	・準備物 ○評価規準
2 3	**＜Warming Up＞** ・Greeting 【Today’s Menu】 ・今日の授業の流れを知る。 【Let’s Chant】 What do you want? p.27 ・最初に教科書に載っているチャンツを言う。色や形を替えて，オリジナルチャンツを作って言う。	H/A は全体にあいさつをする。 H：Today’s Menu を児童と確認する。 H：色や形を替えて，オリジナルのチャンツを作らせる。 A：一度デモンストレーションをしてか	・Today’s Menu のカード ・大型テレビ

5		ら，チャンツを言わせる。 What do you want? A red triangle, please. What do you want? A pink square, please.　Wow! A house.	・パソコン
	【Today’s goal】 ・本時のめあてをつかむ。	H：今までの流れを確認してから，本時のめあてを提示し児童と確認する。 ○欲しい物を尋ねたり，答えたりしよう。	・Today’s goal のカード
30 5	**＜Main activities＞** 【Activity】 ・お店屋さんとお客さんとのやり取りを考える。 ・学級を半分に分けて，お店屋さんとお客さんになる。 ・カードを作るために，形を集めにお店に買いに行く。	H/A：HT と ALT がやり取りのモデルを示すのではなく，児童にお店屋さんごっこでのやり取りを考えさせる。児童から出たやり取りを HT と ALT でデモンストレーションし，見通しをもたせる。 ＜想定される子どものやり取り例＞ A/B：Hello. (1) A：What do you want? B：色・形，please. A：How many? B：～ please. (2) A：What do you want? B：形，please. A：What color? B：～ please. A：How many? B：～ please. A：Here you are. B：Thank you. A：You’re welcome. A/B：See you. A：お店屋さん　B：お客さん H：困っている場面や良いやり取りをしている場面があったら，一度止めてみんなで共有し，そのやり取りを再現させて次の活動に生かすようにする。 A：児童に取り入れさせたい英語表現をモデルリーディングする。 (3)どちらの大きさが欲しいかお店屋さんが分からないとき A：Big？　Small? B：～ please. (4)売る物がなくなったとき A：What do you want? B：色・形，please. A：No, Sorry.	○相手に伝わるように，欲しい物を尋ねたり答えたりしている。 （行動観察・振り返りカード点検）

	・本時の活動を振り返り，カードに記入する。 ・あいさつをする。	A：本時の活動を振り返り，良い表現活動の様子やコミュニケーションをほめる。 H：本時の様子を称賛し，Today’s goal に沿った振り返りができるように支援する。 ・あいさつをする。	・振り返りカード

H:HRT　A:ALT

振り返りカード

外国語ふりかえりカード

Today's Goal:

月　日　曜日　名前

今日の学習はどうでしたか？

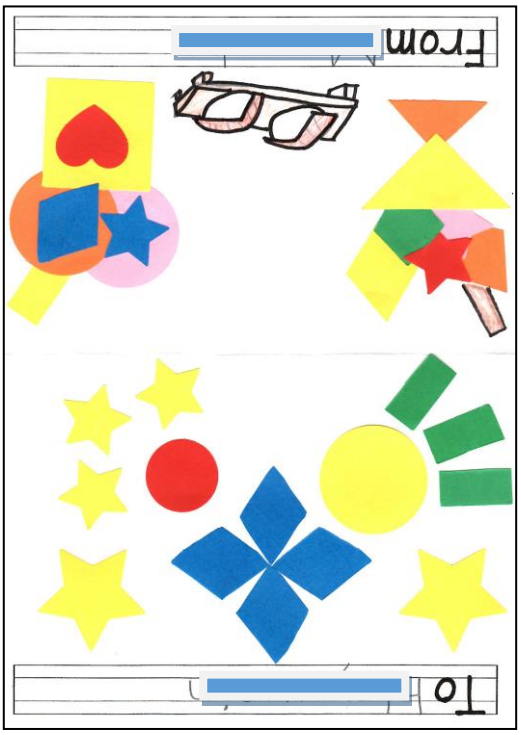
Today's Goal を達成できた。	
いっしょうけんめい聞くことができた。	
自分から進んで話すことができた。	
友だちや先生たちと外国語でやりとりできた。	

★ 友だちや先生とのコミュニケーション（会話など）のこと
★ 今日の活動で楽しかったこと・できるようになったこと
★ 外国や日本の文化や行事について気づいたこと

グリーティングカード

本時で集めた形を使ってこのようなカードを作りました。

カード１



・成果と課題

本授業では，子ども達がただのリピート活動ではなく、自分たちで気づき、思考しながらやりとりできる学習を目指した。材料集めのお店屋さんごっこを始める前のデモンストレーションでは，必要最低限のやりとりしか行わなかった。たくさんの情報をインプットするよりも，最低限買い物に必要なやりとりを教えることで，子ども達がこれを買うためにはなんといったらよいかを考える機会を設けた。「何個ほしいか。」「大きいものがいいか。小さいものがいいか。」など，困った場面が出たらその都度みんなで考えたり，友達同士で教え合ったりするようにしたことで，必然性のある活動を仕組むことができた。

課題は，活動の場面での子ども達の見取りである。全員を個別に見取ることが難しい場面では，振り返りカードに頼るところが大きい。ＡＬＴとの分担を考えたり，単元ごとに集中的に見取る児童を決めたりすることで，年間を通して，全児童が学習している様子を見取ることができるようにしていきたい。

（３）ブロック全体の成果と課題

目標の観点	検証場面・検証の方法・検証の視点
①外国語に慣れ親しみ，様々な活動に興味関心をもつ姿が見られたか。または見られるようになったか。（主体的に学ぶ力）	・授業の中での様子 ・ワークシートや振り返りシートの記述の内容やその比較 ・４つの手立てが有効に働いたか

【成果】

・３年生にとって何に興味があるのか考え，それに沿った言語活動の目標を設定したことがゴールに向かってわくわくする子供の姿に繋がった。

・普段の生活の中でも「Here you are.」「Thank you.」が自然に出てくるようになった。

・言語活動の input→発語→チャンツ→練習→やり取り（教師⇔子供）→やり取り（子供⇔子供）とステップを踏んだ授業を意識することで外国語への慣れ親しむ様子が見られた。

・ゲームの要素を取り入れることは，楽しみながら活動することにつながった。

・単元のゴールを設定することで，子供たちに何に向かって学習するのか見通しをもたせることができた。

・よく知っていると考えていた友達からの意外な返答は，驚きと共に，他の人にもっと聴いてみたいという意欲につながった。

・繰り返し聞き慣れ親しんだところで，さらに繰り返し発語する過程を丁寧に行うことは，自信もってやり取りすることにつながった。

・同じ表現をクイズ・ゲーム・チャンツなど様々な手立てを何度も繰り返した。回を追うごとに自然に発話できるようになる様子が見られた。

【課題】

・学習内容が多く，コミュニケーションというより，単語を覚えるだけで精一杯という子供もいる。

【まとめ】

目標を明確にし，無理のないステップで課題を設定することで，見通しをもった学習ができた。目標や課題の設定については「本物のやり取り」にすることが意欲につながる。インフォメーションギャップが子供たちに友達の新たな一面を知る機会となった。また，やり取りに必然性があることで，子供たちは自主的に表現を獲得しようとし，やり取りを楽しむために繰り返し発語し表現に慣れ親しんでいった。

なかなか自信を持てない子供についてはゲーム的な要素を取り入れることも有効であった。

学習内容が多い単元では，表現に慣れ親しむことが難しいが，日常生活の中に表現を取り入れていくなど工夫することもできる。

②人とコミュニケーションを図り，学び合う姿が見られたか。または見られるようになったか。（相手意識を持ち，人と関わり学び合う力）	・授業の中での様子 ・ワークシートや振り返りシートの記述の内容やその比較 ・４つの手立てが有効に働いたか

【成果】

・子供たち同士がやり取りをする中で，分からなくて言葉が出ない相手にこっそり教えてあげたり，教えてもらってうれしそうに発語したりしている様子が見られた。
・会話の始めや終わりを意識している様子が見られ，コミュニケーションをスムーズにしている。
・ALT とのデモンストレーションを通し表現を確認したり，繰り返し発語することで自信をつけたりすることでやり取りを楽しむ様子が見られた。
・デモンストレーションにない表現を「何ていったらいいのかな？」と，全体の場で子供たちと一緒に考えていった。
・相手意識を持つことで，相手に伝わるように表現しようとする姿が見られた。

【課題】

・子供達からコミュニケーションをとる上で大切なことを聞いたとき「アイコンタクト」「スマイル」が挙げられたが，なかなか上手くできないようだった。
・発表の場面では，姿勢や声の大きさにばかりに注目してしまう傾向があるが，少しずつ表現の方法について考える機会を設定していきたい。

【まとめ】

単元の始めでは，上手く言えない子に教えてあげるといった学び合いの姿がある。上手く言えなくても教えてもらえるという安心感の中で，繰り返しやり取りをしていくことで慣れ親しみ，自信につなげていく。単元の終わりには慣れ親しんだ表現だけでなく，「もっと言いたい。」という思いを共有し，「こう言ったらいいんじゃないかな。」と一緒に考えていく。コミュニケーションの中で学び合うことを丁寧にやっていきたい。

③自分の思いを伝えられ，達成感を感じられていたか。または感じられるようになってきたか。（自己実現しようとする力）	・授業の中での様子 ・ワークシートや振り返りシートの記述の内容や　その比較 ・４つの手立てが有効に働いたか

【成果】

・英語を使って相手に自分の思いを伝えることができたことに大きな喜びを感じたことを振り返りシートに記述している子が多くなった。

・単元の終わりに作ったプレゼントを友達に渡したり，お家の人にプレゼントしたりすることを純粋に楽しみ，達成感を感じている様子だった。

・「クラスの好きなものランキングを作ろう」「名刺交換をしよう」というように本当のやり取りをしないと実現できない目標を立てることで，意欲を喚起し，達成感も向上した。

・授業参観でお家の人にも参加してもらい，クラスの友達以外の人とコミュニケーションできたことは，自信につながったようだ。

・日常生活の中でちょっとしたやり取り（健康観察や数を尋ねるなど）を行うことで英語で話すことの楽しさを感じていた。

【課題】

・日本語でも自分の思いを上手に伝えられない子供たちは，英語でのやり取りでも少し戸惑ってしまう場面があった。

・毎時間，「聞く→発語する→使う→やり取りする」の流れを仕組む時間的な余裕がなかった。慣れ親しむことが十分にできないとやり取りがスムーズに行かなくなってしまった。

【まとめ】

「伝え合う必然性のある言語活動」を踏まえて目標を設定することで「本物のやり取り」が必要になり，子供たちの意欲が向上する。決まった言葉でなく，自分の本当の思いを伝えることができたと感じることで達成感を感じることができる。

日常のやり取りの中で，クラスの友達以外の人とのやり取りの中で英語で思いを伝えることができることは自信にもつながる。日本語で自分の思いを伝えることが苦手な子が，外国語活動のやり取りでは，みんなと同じように自分の思いを伝えている姿が見られるようになった。外国語活動で得た自己実現しようとする力を他の教科に広げていくことができるのかも知れない。

外国語科ブロックの研究

（１）概要

外国語科は高学年の教科であるため，授業実践者は高学年担任である。そこで本ブロックの研究の進め方は，研究授業者（６年１組）の実践から学ぶこととした。これは授業者が新学習指導要領に精通し外国語科･外国語活動の豊富な知識や実践経験をもとにリーダーシップをとることができるためである。授業者の指導案や実践に対しブロックで討議したりデモンストレーションしたりする形で一年間の研究を進めてきた。

【研究テーマに関して】

「進んで考え，豊かに表現する子どもの育成」を達成するため，「伝え合う必然性のある言語活動」をどのように仕組んで単元計画を作るのかを探ってきた。外国語科に限ったことではなく，各教科においても問題解決するための必然性は大切である。小学校は学級担任制のため，日々の授業における学級経営で「進んで考え，豊かに表現する子どもの育成」を意識していくことが重要になる。課題やゴールの明確な設定，さらには評価の可視化などである。

各教科の横断的な研究テーマと捉えることができるが，特に外国語科は言語活動そのものが核になる教科である。学級担任が仕組む必然性ある言語活動は，児童の実態に応じて行う。その点からもブロック研究は６年１組の児童の実態を把握することが必要で，学級経営を共通理解してきたことも研究の大きな要素であったと考える。

【研究の視点について】

「目的・場面・状況を意識した言語活動」「目標を見据えた指導」「本物のやり取りを大切にした授業」「無理のないステップを踏んだ指導」の４つの手立てをもって授業づくりをしてきた。特に「目的・場面・状況を意識した言語活動」を軸に研究してきたが，研究過程の中で「無理のないステップを踏んだ指導」に着目した。ステップとは，①担任とＡＬＴが言語活動のモデルとなることで見通しをもたせること。②児童一人一人にしっかり発話する機会を与える。③課題設定の工夫により，言語活動によって問題解決する必然性をもたせる。④主体的に繰り返し練習するステップを踏ませることである。この「無理のないステップを踏んだ指導」が，自分の思いを伝えられ達成感を感じられる言語活動につながるからである。

このステップには語彙を増やすことやコミュニケーションツールを使いこなすことなどが含まれ，繰り返しの練習を行う土台に「本物のやり取りを大切にした授業」が実現すると考える。

（２）授業実践

・公開授業指導案

第６学年　外国語活動学習指導案

指導者　弦　間　　文

ALT　Woosley Daniel Earl

１　単元名

What do you want to be?　将来の夢・職業（We Can! 2 Unit 8）

２　単元について

（１）教材観

本教材は,「聞くこと」,「話すこと」を中心とした外国語活動を通して外国語に慣れ親しみ外国語学習への動機付けを高めた上で，段階的に文字を「読むこと」及び「書くこと」を加えて総合的・ 系統的に扱う外国語科への移行を視野に入れ構成されている。

本単元では，将来就きたい職業等を尋ねたり答えたりする言い方を知り，チャンツやゲーム，インタビューを通してその表現に慣れ親しむ。単元のゴールの言語活動では,「夢宣言」をし，自分のことについて，伝えようとすることを整理した上で，簡単な語句や基本的な表現を用いて話す活動が設定されている。高学年児童は，自分のよさや自慢できることをはっきりと口にすることを苦手とする傾向もみられる。しかし，様々な国の人々と理解し合う上で，このようなことは弊害になってしまう場合もある。本教材は，グローバル化がますます進展する社会においては，児童たちに自分のよさを自覚し，そのことをはっきりと表現できることがいっそう大切であることに気付かせることができると考える。

（2）児童観

男子 18 名，女子 17 名，計 35 名の学級である。全体的には明るく元気な児童が多く，外国語学習にも意欲的に取り組む児童が多い。しかし,「やり取り」になると慎重になる児童もいる。本単元で扱う将来の夢については，図画工作科で，12 年後の自分をイメージし，将来就きたい職業の姿を制作した。さらに特別の教科道徳では，働くことの意義を理解して，社会の役に立つ生き方について考えた。これらの学習を通し，児童は自分の個性を大切にした進路選択について真剣に考えるようになっている。しかし,友達同士で自分の将来の夢について語り合うことはなく,就きたい職業は知っている友達はいても,その理由までは知らない児童が多い。

そこで本単元では,「話すこと（やり取り)」の言語活動で，意欲的に取り組めるように，就きたい職業だけを尋ね合うのではなく，理由を聞いたり感想を述べたりと，これまでの対話活動で大切にしてきた「対話を続けること」「対話を楽しむこと」を，本単元でも大切にして言語活動を進めたい。

（3）指導観

本単元の指導にあたっては，外国の子どもたちが自分の夢について話しているのを聞いたり，ゲーム等をしたりする中で様々な職業の言い方を知るとともに，自分自身の将来の夢やしたいことについて児童が想起し，自分の夢を語るスピーチができる事を目指していく。

そのために単元の前半では，世界の子どもたちや登場人物が語る将来の夢とその理由について，音声で聞いたり映像を見たりして理解した後，ゲームなどを通して，職業の言い方や将来の夢について話す際の基本的な表現に十分に慣れ親ませる。このようなスモールステップの学習を仕組むことで，自分の将来の夢やしたいこと，その理由などについて総合的に表現できるようにさせたい。単元の後半では，前時までに学習した表現を用いて，自分が将来就きたい職業やしたいこと，その理由などについて，紙面の英文などを参照しながらスピーチ原稿を作成する。スピーチは，卒業を間近に控えた小学校最後の授業参観で，総合的な学習の中の「夢宣言」として，ここまで育ててくれた家族への感謝の思いを込め，２年間学び続けてきた英語で家族に披露させたい。また，単元最後の学習では，大人が仕事をしている映像を視聴する。子どもたちが夢を語り合うだけでなく，働くことの喜びや目的を知るキャリア教育の一環としても有効な教材である。

３　単元の目標

〇他者に配慮しながら，将来就きたい職業やしたいことなどについて伝え合おうとする。

【コミュニケーションへの関心・意欲・態度】

〇将来つきたい職業やしたいことについて,伝え合う表現に慣れ親しむ。　【外国語への慣れ親しみ】

〇将来つきたい職業やしたいことについて，伝え合ったり読んだり例文を書き写したりする中で，日本語にはない語と語の区切りに気付いたり，職業を表す語の成り立ちを比べることを通して，言葉のおもしろさに気付く。　【言語や文化に関する気付き】

４　評価規準

観点	コミュニケーションへの関心・意欲・態度	外国語への慣れ親しみ	言語や文化に関する気付き
評価規準	○他者に配慮しながら，将来就きたい職業やしたいことなどについて伝え合おうとしている。	○将来つきたい職業やしたいことについて，伝え合う表現に慣れ親しんでいる。	○将来つきたい職業やしたいことについて，伝え合ったり読んだり例文を書き写したりする中で，日本語にはない語と語の区切りに気付いたり，職業を表す語の成り立ちを比べることを通して言葉のおもしろさに気付いている。

5　単元の指導計画と評価規準

時	目標（◆）　主な活動（○）	評価 ○評価規準（方法）
1	◆職業を表す語を聞いて分かる。 ○Small Talk：行ってみたい国とその理由 【Let's Watch and Think 1】p.58, 59 ・誌面を見て，知っている職業名を発表し，職業の言い方を知る。 ・映像を見て，分かったことを誌面に書く。 【Let's Play】Pointing Game p.58, 59 ・指導者が言う職業を聞いて，誌面にある職業の絵をペアでさし示す。 ・指導者のヒントを聞いたりジェスチャーを見たりして，それがどんな職業か言う 【Let's Read and Write 1】 ①　p.64 書く文例： I want to be (a pilot). ・音声を聞きながら読んだ（言った）あと，ワードボックスから言葉を選んで書き写す。 ○単元の終末の活動を知る。	※目標に向けた指導を行うが，評価のための記録は次時と合わせて行う。（行動観察・振り返りカード点検）
2	◆職業についてまとまった話を聞いて理解したり，就きたい職業を言ったりすることができる。 【Let's Chant】What do you want to be? p.58 【Let's Watch and Think 2】p.60 ・映像を見て，分かったことを誌面に記入する。 ○先生の夢を知ろうⅠ ・指導者の紹介を聞いたり，指導者の質問に答えたりする。 ○３ヒントカルタ ・職業について，たずねたり答えたりする表現を聞いて理解する。	○職業についてまとまった話を聞いて理解し，分かったことを書いている。（行動観察・記述分析・振り返りカード点検）
3	◆得意なこと・できること，不得意なこと・できないことについて，伝え合う。 【Let's Chant】What do you want to be? p.58 【Let's Listen】p.61 ・音声を聞いて，誰がどんな夢をもっているかを，理由とともに聞き取り，　分かったことを誌面表に記	

	入する。 【Let's Watch and Think 3】p.60 ・映像を視聴して分かったことを誌面に記入する。 ○Let's Talk ・得意なこと・できること，不得意なこと・できないことについて，ペアで話す。	○将来の夢についての話を聞いて，就きたい職業やその理由を書いている。（行動観察・記述観察・振り返りカード点検） ○得意なこと・できること，不得意なこと・できないことについて，伝え合っている。（行動観察・振り返りカード点検）
4	◆就きたい職業について尋ね合う。 【Let's Chant】What do you want to be? p.58 【Let's Watch and Think 2】p.60 ・映像を見て，分かったことを誌面に記入する。 ○Let's Talk ・グループで，どんな職業に就きたいか，友達に尋ねたり答えたりする。 【総合的な学習の時間】 ○グッドラックカード作成 ・自分の就きたい職業を日本語で書く。 ・その職業に就きたい理由の絵を描く。 【Let's Read and Write 2】p.64 書く文例：What do you want to be?　I am good at (dancing).　I am good at (playing soccer). ・音声を聞きながら読んだ（言った）あと，ワードボックスから言葉を選んで書き写す。	○職業についてまとまった話を聞いて理解し，分かったことを書いている。（行動観察・記述分析・振り返りカード点検） ○職業について，たずねたり答えたりする表現を使っている。（行動観察・振り返りカード点検）
5 本時	◆就きたい職業について伝え合う。 ○先生の夢を知ろうⅡ ・担任や ALT の将来の夢とその理由について聞いたり，そのことについて担任や ALT とやり取りをしたりする。 【Activity】 ・将来どんな職業に就きたいかを尋ね合いながら，グッドラックカードを持ち主に渡す。	○就きたい職業について伝え合っている。（行動観察・振り返りカード点検）
6	◆例を参考にして，自分の夢について書く。 【Let's Read and Write　1 】p.62 ・誌面に書かれた Riko の原稿を，音声に続いて読む。 ・前時までに書き写した文も参考にしながら，大文字と小文字に気を付けて いるか，スペースに気を付けているかなどに注意してスピーチ原稿を書く。 ○Let's Read ・班の中でスピーチ原稿を回し読み，大文字と小文字に気を付けているか，スペースに気を付けているかなどについて正しく書けているか確認し合う。 ○Sounds and Letters ①（sh）	○例を参考にして，自分の夢について書いている。　（行動観察・記述分析・振り返りカード点検）
7	◆例文などをもとに，語と語の間隔や大文字と小文字の使い分け，符号などに注意しながら，自分の将来の夢について，理由を含めて書く。	

	◆例文などをもとに，自分の将来の夢について，理由を含めて書こうとする。 〇Let's Talk ・前時に書いた文章を自分で読んでみる。 ・聞き手は感想の言葉を付け加えたり，質問をしたりしながら聞く。 〇Let's Write ・指導者から配布される清書用の紙に，スピーチ原稿を清書する。 ・スピーチ内容と合う絵も描き入れる。 〇Sounds and Letters ②（th）	〇下書きや例文などをもとに，語と語の間隔や大文字と小文字の使い分け，符号などに注意しながら，自分の将来の夢について，理由を含めて書 いている。（行動観察・記述分析・振り返りカード点検）
8	◆将来の夢について書かれた原稿を読み，内容が分かる。 〇Let's Read ・指導者から配布されたクラスの中の誰かのスピーチ原稿を読み，本人だと思う人へ戻す。 ・内容について，コメントやアドバイスを書く 【Let's Watch and Think 4】p.64 ・映像を見て,働く人たちの話から,分かったことや感じたことを発表し合う。 【STORY TIME】 p.65 ・デジタル教材からライム（押韻）の単語とそれらが含まれる文を２～３回聞く。 ・音声のあとに続いて言う。	〇将来の夢について書かれた原稿を読み，書き手を見つけている。（行動観察・振り返りカード点検）
(1)	＜総合的な学習の時間＞ 〇卒業式に向けての取組「卒業プロジェクト」 ・授業参観で，将来就きたい職業ややりたいことについて，友達や家族に向けて「夢宣言スピーチ」をする。	〇自己の生き方を考えることができている。（行動観察・振り返りカード点検） 〇キャリア教育：将来就きたい職業についてスピーチをすることを通し，学ぶこと・働くことの意義や役割の理解をしている。

６　本時の学習

（１）　目標

〇就きたい職業について，伝え合おうとする。　【コミュニケーションへの関心・意欲・態度】

（２）　展開

時間	児童の活動	指導者の活動	・準備物 〇評価規準
5	**<Warming Up>**		

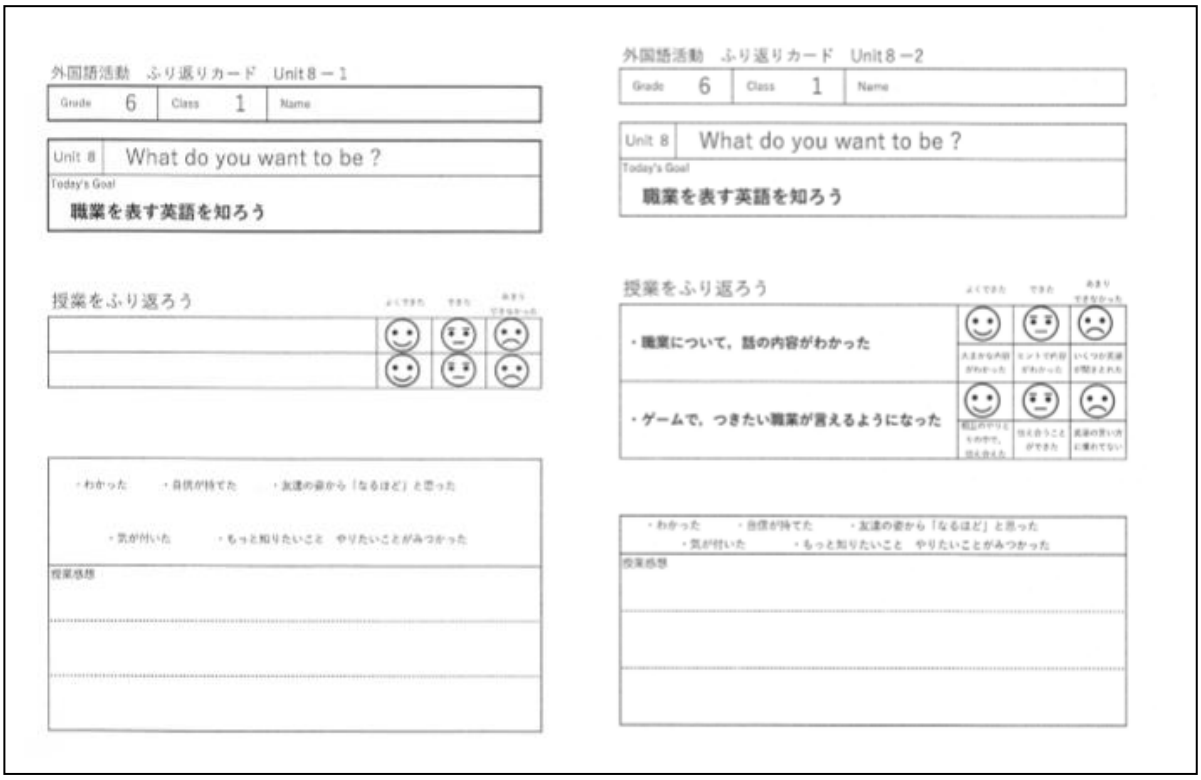
分	1　Greeting ・挨拶をする。 ・How are you? 　→I'm good. / I'm fine.　など。 2　Today's Goal ・本時のめあてをつかむ。	・全体で挨拶し，児童はペアで挨拶をし合う。 ・本時のめあてと学習の流れを児童と確認する。	
10 分	**<Main Activities>** 3　Listen and Talk 〇現在の先生の夢を知ろう。 ・将来の夢とその理由について，HRT と ALT の話を聞いたり，やり取りをしたりする。	・HRT と ALT は，現在持っている将来の夢について紹介する。 ・一方的に教師側が話すのではなく，理由をからませ児童とやり取りをしながら紹介する。次のステップの子どもたち同士のやり取りが活発になるように、T-T や T-S の英語でのやり取りを十分にしておく。 T: I want to be a farmer, and I want to live in nature. I like nature. I like cooking. I want to cook my vegetables. How about you? What do you want to be? ・児童とのやり取りから，「理由」に焦点を当て，全体で学び合えるようにする。 ・ここは、一種の Let's Watch & Think とし，リスニング活動のように、T-T, T-S のやり取りをしながら進める。 ・HRT の夢を，ALT とやりとりしながら聞かせる。その後，イラストを見せながら内容を確認し，What vegetable do you like？など児童とやり取りをする。	・絵カード ・写真等
20 分	〇就きたい職業について，伝え合おう ・就きたい職業を友達に尋ね合い，グッドラックカードの持ち主を探す。その際，カードに書かれている理由について友達とやり取りをする。 ・前半と後半に分けて活動をする。	・カードをもとに，将来就きたい職業を尋ねたり答えさせたりする。 ・1 度やり取りをやってみて，言えなかったことを共有し，既習表現を使った簡単なフレーズ，子どものレベルにあった英語表現を ALT にアドバイスしてもらい，再度やり取りさせる。	・グッドラックカード 〇就きたい職業につい

5分	前半の活動後，友達とのやり取りで言えなかったことを出し，どう表現したら伝えられるか全体で考え共有する。後半は，既習表現を意識して活用しながら，友達とやり取りをする。 ＜想定される児童のやりとり例＞ S1: What do you want to be? S2: I want to be an astronaut. S1: It's nice dream. S2: Thank you. S1: But, why do you want to be an astronaut? S2: I like watching stars. Do you like watching stars? S1: Yes, I do. I like watching SEIZA. What HOSHI do you like? S2: I like Saturn. S1: Saturn? S2: Saturn is DOSEI. S1: You like DOSEI. S2: Yes, I want to go to Saturn! S1: It's exciting! ＊SEZA や HOSHI のように英語での言い方がわからない場合は，日本語を使っても良いことを，児童には事前に告げておく。 ・友達とのやり取りから気付いたことを，スピーチ原稿作成へのアドバイスとしてカードに記入し，友達の夢を応援する気持ちを込めてグッドラックカードを渡す。	・前半の活動で児童が言えなかったことを，既習表現に結びつけられるようにヒントを出し，どう表現していけば相手に思いが伝わるか考えさせる。 ・インタビューではあるが，就きたい職業だけを尋ね合うのではなく，理由を聞いたり，感想を述べたりなど，これまでの対話活動で大切にしてきた「対話を続けること」「対話を楽しむこと」を，本活動でも大切にするよう伝える。 ・ここでのやり取りから気付いたことを，スピーチ原稿を作成する上でのアドバイスとして，友達に伝えていくようにさせたい。	て，伝え合っている。（行動観察・振り返りカード点検）
5分	**<Looking back>** 4　振り返り ・本時の活動及び単元を振り返り，振り返りカードに記入する。 ・挨拶をする。	・本時のねらいに照らして児童を称賛する。 ・挨拶をする。	・振り返りカード

＜資料＞

(1)グッドラックカード

(2)振り返りカード



外国語活動　ふり返りカード　Unit８－３

Grade	6	Class	1	Name

Unit 8	What do you want to be ?
Today's Goal	得意なこと・できること・不得意なこと・できないことについて伝え合おう

授業をふり返ろう

	よくできた	できた	あまりできなかった
・将来の夢について，話の内容がわかった			
・得意なこと，できること，不得意なこと，できないことを，ペアで伝え合うことができた			

・わかった　・自信が持てた　・友達の姿から「なるほど」と思った
・気が付いた　・もっと知りたいこと　やりたいことがみつかった

授業感想

外国語活動　ふり返りカード　Unit８－４

Grade	6	Class	1	Name

Unit 8	What do you want to be ?
Today's Goal	つきたい職業についてたずね合おう

授業をふり返ろう

	よくできた	できた	あまりできなかった
・将来について，話の内容がわかった			
・どんな職業につきたいかたずねたり，答えたりすることができた			

・わかった　・自信が持てた　・友達の姿から「なるほど」と思った
・気が付いた　・もっと知りたいこと　やりたいことがみつかった

授業感想

外国語活動　ふり返りカード　Unit８－５

Grade	6	Class	1	Name

Unit 8	What do you want to be ?
Today's Goal	つきたい職業について友達と伝え合おう

授業をふり返ろう

	よくできた	できた	あまりできなかった
・どんな職業につきたいかたずねたり，なりたい理由を答えたりすることができた			
・友達の答えに，質問をすることができた（スピーチ原稿へのコメントができたか）			

・わかった　・自信が持てた　・友達の姿から「なるほど」と思った
・気が付いた　・もっと知りたいこと　やりたいことがみつかった

授業感想

外国語活動　ふり返りカード　Unit８－６

Grade	6	Class	1	Name

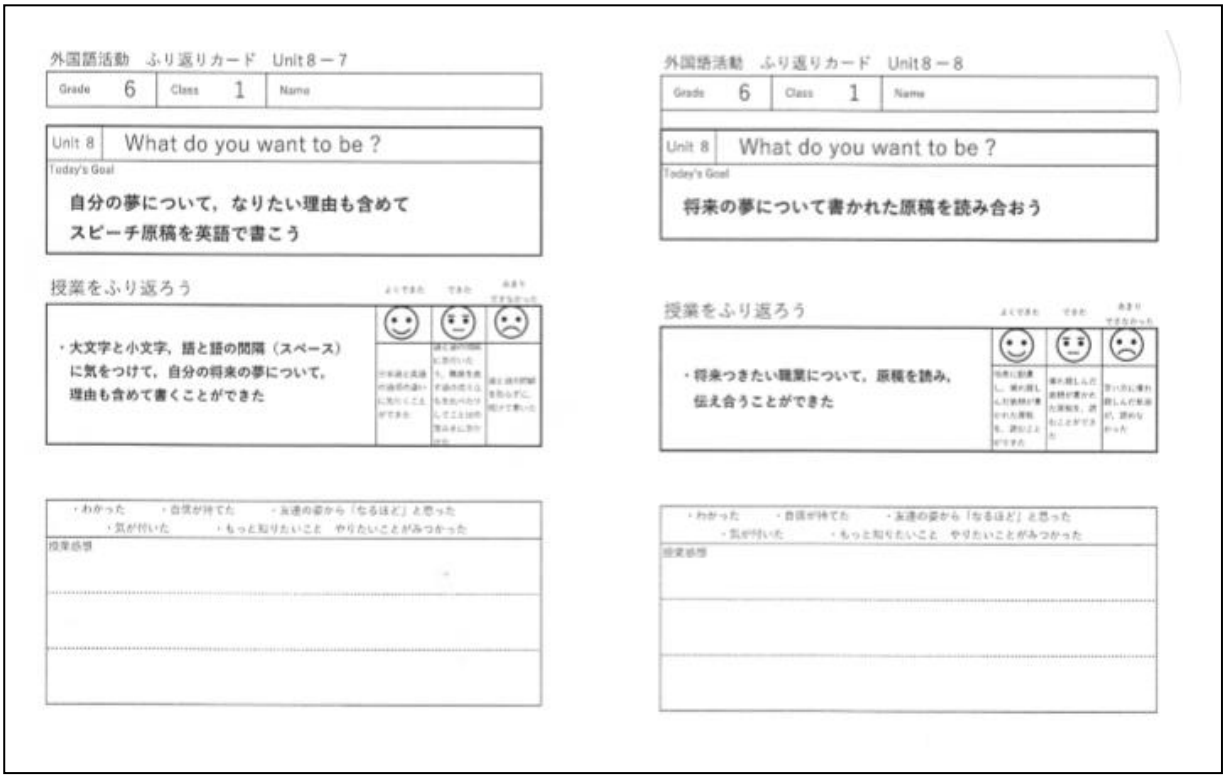
Unit 8	What do you want to be ?
Today's Goal	自分の夢について，スピーチ原稿を英語で書こう

授業をふり返ろう

	よくできた	できた	あまりできなかった
・例を参考に，大文字と小文字，語と語の間隔（スペース）に気をつけて英文を書くことができた			

・わかった　・自信が持てた　・友達の姿から「なるほど」と思った
・気が付いた　・もっと知りたいこと　やりたいことがみつかった

授業感想


外国語活動　ふり返りカード　Unit８－７

Grade	6	Class	1	Name

Unit 8	What do you want to be ?

Today's Goal

自分の夢について，なりたい理由も含めて
スピーチ原稿を英語で書こう

授業をふり返ろう

・大文字と小文字，語と語の間隔（スペース）に気をつけて，自分の将来の夢について，理由も含めて書くことができた

・わかった　・自信が持てた　・友達の姿から「なるほど」と思った
・気が付いた　・もっと知りたいこと　やりたいことがみつかった

授業感想

外国語活動　ふり返りカード　Unit８－８

Grade	6	Class	1	Name

Unit 8	What do you want to be ?

Today's Goal

将来の夢について書かれた原稿を読み合おう

授業をふり返ろう

・将来つきたい職業について，原稿を読み，伝え合うことができた

・わかった　・自信が持てた　・友達の姿から「なるほど」と思った
・気が付いた　・もっと知りたいこと　やりたいことがみつかった

授業感想

・成果と課題

本授業では，教師が決めたパターンがあり，その中の一部の単語のみを入れ替えて子どもが表現をするのではなく，「友達のスピーチ原稿をブラッシュアップする」場面で，「グッドラックカードをもとに質問をやり取りする」状況を設定し，「既習表現を使って聞き手が知りたい内容を質問する」という学習を進めた。

児童は，質問したいことがどのように表現したら相手に伝わるか，答える側は，どう表現したら自分の思いが明確に伝わるか，児童が表現内容を考え，既習語句や既習表現の中から使う語句や表現を手繰り寄せ,選び考えていた。このような本時の授業の児童の学習は，コミュニケーションにおける思考の場面ととらえられ，授業場面の中で「思考・判断・表現」の観点で評価が行えるという実感が持てた。さらに,児童の相互評価を取り入れ，児童の見取りを明らかにしていった。継続した児童による相互評価を参考に,個別に見取ったり支援をしたりしていく児童を抽出し,ＡＬＴは専門的な見地から発音や語順などの知識・技能を，担任は学習場面での思考・判断・表現を見取ることができた。

課題については，外国語科に移行するにあたり，学習指導要領の内容の中で児童の表現を促していく必要があると講師からコメントをもらった。この点については，小学校外国語から中学校外国語科へ内容がボトムアップし，児童が無理なく学習し続けられるような支援を，中学校と連携を取り合いながら実践していきたいと考える。

（３）　ブロック全体の成果と課題

目標の観点	検証場面・検証の方法・検証の視点
①外国語に慣れ親しみ，様々な活動に興味関心をもつ姿が見られたか。または見られるようになったか。（主体的に学ぶ力）	・授業の中での様子 ・ワークシートや振り返りシートの記　述の内容やその比較 ・４つの手立てが有効に働いたか

【成果】
・児童が知りたい情報を題材にすることで，言語活動を必然的に行わせ，積極的に外国語での会話を楽しむ姿が見られた。
・題材の設定を工夫し，興味深く課題に取り組む姿が見られた。
・目的意識とゴールの設定をしっかりすることで，主体的に学ぶ姿が見られた。
・児童が興味・関心をもち，体験的な活動ができる言語活動を行った。
・児童が主体的に活動したくなるような映像を用いた指導ができた。
・会話の中に，うなずいたりリピートしたりする練習を取り入れたので，児童が会話に慣れていく様子がうかがえた。

【課題】
・中学年からの積み重ねが少ない学年だったので，国旗や異文化に慣れ親しませる時間が少なかった。
・一人一人が外国語にきちんと慣れ親しむ活動（何度も聞く活動）の時間が満足にとれなかった。自分から伝えることには主体的であるが，聞き取ることには関心や興味をあまりもてていなかった。
・全８時間の構成で，外国の紹介内容を調べ，掴む時間がもう少しほしかった。紹介内容を具体的なポスターなどで視覚化するなど資料の準備が大切であったが，十分に用意されていたとは言い難かった。

【まとめ】
「目的・場面・状況を意識した言語活動」を仕組んだ授業づくりをしたことで，興味関心をもって活動している様子だった。言語活動によって問題解決する課題設定を行い，目的やゴールを明確にすることで，児童が活動する必然性を生んだ。パターン化した会話法を習熟させ慣れ親しませることで主体的な会話を楽しむ姿が見られた。

しかし，外国語を使った言語活動を行う上で，外国について知る時間が足りない。スピーチやリスニングの慣れ親しみにかかる時間やプレゼンテーションの準備にも多くの時間が必要である。

②人とコミュニケーションを図り，学び合う姿が見られたか。または見られるようになったか。（相手意識を持ち，人と関わり学び合う力）	・授業の中での様子 ・ワークシートや振り返りシートの記　述の内容やその比較 ・４つの手立てが有効に働いたか

【成果】
・相手意識をもちながら発表ができるよう，伝える際のポイントを児童から引き出し，意識させながらコミュニケーションをとることができた。
・各学年の実態に合ったコミュニケーションの楽しみ方を題材にしたので，友だちと関わり学び合う姿が見られた。
・コミュニケーションを図る前段階で，習得すべき言語活動の練習ステップをしっかり踏むことで，進んでコミュニケーションをとることができた。
・日常生活でもコミュニケーションが苦手な児童には，絵や文字，日本語など，いろいろなコミュニケーションツールを仕組むことで，会話をしやすくした。
・ＡＬＴとの役割分担をしっかりし，会話のモデルとなり，児童にイメージをもたせることができた。
・指導者や教材の伝え方から相手意識を持った伝え方の方法を学び，相手意識を持ちながらコミュニケーションをとることができていた。
・友だちとプランを伝え合うことで，よいところやマネしたいところを見つけ，互いに学び合うことができた。

【課題】
・聞き手側になった児童がリアクションをとることができない姿が多かった。

・授業時間内で一人一人がしっかり発話する機会を与えないまま進めるとコミュニケーションは成り立たなかった。
・国語科など，他教科でも言語活動の習熟が必要である。
・聞くポイント（①繰り返す②うなずく③反応する）を示したが，聞き取ることに一生懸命になり，実践できている児童が少なかった。

【まとめ】

現実的には日本語でのやり取りが苦手な児童が外国語でコミュニケーションをとることは難しい。そこで繰り返しの練習が必要になると考える。回数を多く練習するだけでなく，言語と実体が結びつかなければならない。そのために実物や写真などの具体物を通して言語をイメージ化し，インプットする時間を確保していきたい。

③自分の思いを伝えられ，達成感を感じられていたか。または感じられるようになってきたか。（自己実現しようとする力）	・授業の中での様子 ・ワークシートや振り返りシートの記　述の内容や　その比較 ・４つの手立てが有効に働いたか

【成果】
・最終的な目標を達成する（発表原稿を作る）ために，既習事項や新しい語彙を組み合わせていくステップを各時間に構成していった。
・児童が自分の到達度を意識しながら，ＡＢＣの評価を自己評価させるようなふり返りをさせることができた。
・毎時間ふり返る内容を変えて，ふり返りシートを配布することで，評価意識をもち，達成感が得られやすくなった。
・思いを伝えるための会話の訓練活動を大切にした。
・無理のないステップを踏みながら，プランを伝える方法を習得していくことで自信をもって発表することができた。
・インターネットを用いておすすめの国について詳しく調べたことで，既習事項をたくさん使って工夫しながら，より良いプランをし，友だちが行きたくなるような伝え方をしたいという思いが芽生えていた。
・日常生活で使っているフレーズを英語に変換する言語活動は，伝える側も聞く側も理解しやすく，達成感を感じることができた。

【課題】
・相手に自分の伝えたいことを伝える際に，知っている単語の中で相手に伝え合えるように語彙を選んで文章を作っていくことが難しかった。
・教科として学んだことを積み重ねていかなければならないので，きちんと習得させてから次の単元にいかなければならないのが難しい。
・日本語で自分の思いを伝えられるような学力が必要である。
・紹介する国を多くの子供がポスターセッションで聞いてくれたことで達成感をもった児童が多くいたが，紹介内容に対する自分のうなずきはできても，紹介された子どもが相槌をうって，ポスターを見て紹介された内容に質問をすることがなかなかできていなかった。会話として成立していないことの方が多かった。

【まとめ】

我々は母国語を習得する過程では，幼児の時に何度も修正しながら言語獲得していく。小学校で外国語を学習している児童は，同じような過程を踏んで新しい言語を獲得していることになる。その点を意識して指導しなければならない。授業を通して，外国語を伝えるだけから始まり，教師と児童間，児童相互のやり取りの中で言語を丁寧に修正していく時間の保障が重要である。その丁寧な指導によって，児童は徐々に表現に自信をもち自分の思いが伝えられるようになると実感した。

外国語教育　授業づくり相川スタイル

【その１】　学習過程のスタイル

(1)学習の流れ
(2)担任とALTとの効果的な連携

【その２】　指導方法のスタイル

(1)伝え合う必然性のある言語活動という視点で
①目的・場面・状況を意識した言語活動（相手意識・目的意識）
②目標を見据えた指導
③本物のやりとりを大切にした授業
（既有知識，新しい知識・技能の活用）
④無理のないステップを踏んだ指導

(2)学び合いという視点で
①見方・考え方を働かせた活動(学び合いの考え方)
②コミュニケーションにおけるポイント(学び合いの技能)

【その３】　評価のスタイル

(1)振り返りカードの活用

【その４】　学習環境のスタイル

(1)外国語活動教室の整備
(2)板書
(3)メニュープレートの提示

【その１】学習過程のスタイル

(1)学習の流れとALTとの役割分担

・３つの過程に分けて流れを整理する。
Warming　Up(雰囲気づくり･動機付け)
MainActivity(めあてを達成させるための活動)
Looking Back(学習の喜びや充実感の醸成)

(2)担任とALTとの効果的な連携

・ALTとの役割をそれぞれの適性に合わせ分担する。

学習の流れと授業の中での役割分担

Warming　Up（始めの挨拶）外国語の時間の雰囲気作り，動機付づけ

流れ	T1（学級担任）	ALT
【あいさつ Greetings】	 TR　: Stand up.　/ Attension. Let's start English class. TR　: Bow. /　Sit down/. Good morning , e (S:Good morning ～ sensei .) Dan sensei.	Good morning, everyone. (C:Good morning Dan sensei.)
	両サイドから話かける How are you today? (S: I'm fine. How are you , Dan sensei?) I'm happy.	
高学年はさらに…	What's the date today? (S: It's June 5th.)	What day is it today? (S: It's　Monday.)
	【SMALL TALK】5 年生 Input 中心　指導者と児童のやり取り中心 •発達段階に応じて,作っておくと良い。 •既習表現繰り返し•本時で身に付けたい表現 ①教師と教師のやり取り ↓ ②教師と児童のやり取り ↓ ③一問一答程度の児童と児童のやり取り （児童の実態に合わせて） 五～七分	【SMALL TALK】6 年生 子供同士のやり取り中心 •既習表現繰り返し•本時で身に付けたい表現 ①教師と児童のやり取り ↓ ②児童と児童のやり取り ↓ ③指導（ポイント！） ↓ ④児童と児童のやり取り（相手を替えて） 七～十分
【Today's menu の提示】 Warming　Up Review Chant Watch　&　Think Main Activity Comunication Game Looking Back	○今日の学習の流れを話す。	
【前時までの振り返り Reveiw】	○前時までの学習をふり返る ○前時までに親しんだ表現 （歌や Chants） ○既習表現を使用する帯活動 デジタル教材の操作	

T1, ALT も一緒に歌ったり表現したりする。

Main　Activity（本時の活動）めあてを達成させるための活動

流れ	T1（学級担任）	ALT
【Goal の提示】	○Today's　Goal　の提示 ○Today's　phrase　の提示	モデルリーディング（発音） モデルリーディング（発音）
【メインの学習活動 Main　Activity】	○新しい言語材料のインプット 説明や確認 ○めあてを達成させるための活動 ・ゲーム ・コミュニケーション活動 ・自己表現活動 説明・補足・確認 ・絵本の読み聞かせ　など	英語でゲームの説明 英語で表現

担任と ALT でモデルになり，デモンストレ-ションを行い理解を促す。

Looking　Back（本時のふり返り）学習の喜びや充実感の醸成

流れ	T1（学級担任）	ALT
【振り返り　Looking Back】	○訳したり,重ねて褒めたりする ○ふり返りカードを書かせる。 ○本時の授業,活動への賞賛を行う	○本時の活動をふり返り,よい表現活動の様子やコミュニケーションを褒める。
【あいさつ　Greetings】	That's all for today. Dan sensei.	Good bye , everyone.　See you. (S:Good bye Dan sensei . See you.)

TR　: Stand up.　/ Attension.

Let's finish English class.

ALTとの役割分担マニュアル

～「英語を使ってコミュ～ニケーションできる」授業にするために～

担任:授業のコーディネーター

児童にとってコミュニケーションの必然性のある場面を設定し,授業では児童の気付きを引き出したり,ジェスチャーや簡単な英語で児童の思いや考えを代弁したり,ALTとのやりとりの時間を確保する。

それぞれ役割を果たしながら，アイディアを出し，協力して授業を作ることが大切。

ALT:ネイティブスピーカーとしての英語力

担任と英語でデモストレーションしたり,児童と直接会話したりする機会を提供し,児童に「英語が使えた」という経験をさせる。ネイティブ・スピーカーの発音を聞かせ,自然な表現をインプットする。

（1）授業準備・授業前

学級担任の役割

○児童の実情,興味・関心と単元の題材にあったコミュニケーション活動の設定をする。
○指導案に役割分担を示し,「目標」と「学習の流れ」について打ち合わせをする。

ALTの役割

○担任の考えたコミュニケーション活動に必要な単語や表現を準備し，研修や経験に基づく，様々な活動案を提示する。
○単元に関連して提示できる自国の文化等を紹介する素材を準備する。

（2）授業中

学級担任の役割

○児童の理解の様子や授業を掌握し，進行する。ALTや児童に指示を出す。
○クラスルームイングリッシュを適する場所で扱う。
○「褒める言葉」をたくさん使う。（掲示しておいても良い。）
○ALTの英語の指示をくり返す。（児童の理解を確認しながら，外国語での説明でも日本語での説明でも良い。）
○児童の日本語によるつぶやきや気付きを拾い,ALTに易しい英語で言ってもらう。
○メインの活動では,全体の様子を掌握しながら,児童と一緒に活動に参加し，外国語を使うことに積極的な姿勢を見せる。
（外国語でコミュニケーションを図ろうとするモデル,外国語を学ぼうとするモデルになる。）
○児童のつまずきに気付き，適切な支援をする。
○振り返りの活動では,児童の活動の様子について情意面で気付いたことを評価する（褒める）。

ALTの役割

○外国語での指示を出す。
○Native　speaker　としての正しい発音を繰り返し聞かせる。
○学習した英語を使って児童と会話する。
○「褒める言葉」をたくさん使う。
○児童のつぶやきや気付きを,児童から直接,または,学級担任等を介して受け取り,易しい英語やジェスチャーを使ってわかりやすく示す。
○国際理解の一環として，児童の発達段階に応じた学習内容に関する自国の紹介をする。
○振り返りの活動では,児童の活動の様子について技能面を中心に評価する（褒める）。

（3）授業後

学級担任・ALTの役割

○ともに,指導についての評価を行い,改善方法について話し合う。
○児童の学習状況について,気付いたことや発見したことを共有する。

【その２】指導方法のスタイル

(1)伝え合う必然性のある言語活動の視点で

①　目的・場面・状況を意識した言語活動（相手意識・目的意識）

目的・場面・状況を意識した言語活動を！！

◆目的・場面・状況を意識しよう

ア　誰に向かって話をしようとしているのか（相手の設定）
イ　何のために習った表現を使うのか（活動の目的）
ウ　どのような状況や場面で習った表現を使おうとしているのか（活動の場面や状況）

◆言語活動の必然性を高める工夫をしよう

ア　児童が「習った表現を使って伝えてみたい！！」と思える場面や目的を作り出す。
→児童にとって自然に使える場面を考える。
イ　相手の思いを想像し，伝える内容や言葉，伝え方を考えながら，相手と意味あるやりとりをする活動を様々な場面設定の中で行う。「伝え合う」ことへの意欲が高まるような場面設定や題材の選択。(Information gap[1]が必要。)
ウ　児童が興味・関心を持つ題材（＝自分のこととして捉えられる課題）を扱い，聞いたり話したりする必然性のある体験的な活動の設定。

◆思考力・判断力・表現力等の育成につなげよう→児童の創造性を発揮できるよう！
「こんな目的の場合は，どんな表現だと伝わるかな？」←思考
「こんな人が相手だったら，どんな内容を言ってあげると嬉しいかな？」←思考
「こんな場面だったら，どんな風に言えば自然かな？」←思考

ア　児童に目的・場面・状況を具体的に意識させ，表現内容や表現方法を一緒に考える。
イ　英語でどう表現したらよいか迷った場合には，これまで習ってきた単語や表現を思い出させ，それらの表現で言い換えることができないか一緒に考える。
ウ　積み上げがない３年生の場合，ALT と担任のやりとりを聞いて，場面や目的から，顔の表情やジェスチャーなどいろいろな視覚情報から，こういうことを言っているのではないかと推測することも思考と捉える。

Small talk も言語活動。即興性を鍛えるために入れていく！！

最終的には，パターンから抜け出した自由なコミュニケーションにつなげたい！！

---

[1] Information gap とは話し手と聞き手、書き手と読み手の間に情報の差があること。この差を埋めるために、情報交換が行われ、コミュニケーションが成立する。必要な情報を求めて，やりとりする場面を作るようにする。

②　目標を見据えた指導

目標を見据えた指導を！！

目的・場面・状況を意識した言語活動を仕掛けていくに当たり…

単元の中のどこで，どんな必然性を持たせるかは，最終ゴール「単元目標」を見据えておくことが必須である。明確な目的や見通しを持ち，授業や活動を位置づけていく。

年間指導

それぞれの学年で確認

★年間を通してこのようなことができるようになっている，
この時期にはこのような活動を行う，これまでこのような事を学んできたなど見通しをもつ

単元目標

どんな必然性ある活動が仕組めるか？

★単元目標を押さえる。
★最終目標となる言語活動をイメージする。
★単元目標を達成できるよう，授業目標を関連付ける。

授業目標

★最終ゴールに向かって，１時限から少しずつ少しずつ様々な活動をくり返しながら，
単語や表現に慣れ親しませる。
★音声から文字へ，インプットからアウトプットへという流れをつくる。
★無理のないステップを踏んだ指導にする。

活動目的

③　本物のやりとりを大切にした授業（既有知識，新しい知識・技能の活用）

本物のやりとりを大切にした授業を！！

会話をパターン化した練習を第一の目的とした機械的なものではなく，「相手は何がすきだろう？」「へえ，そうなんだ！」といった真のやりとりをしたい。

◆既習の表現を使って会話しよう

今まで習ってきた表現を何度も使って，教師が楽しく会話をする姿を示す。

◆相手の話にリアクションしよう　　「認める」「共感する」

会話を楽しく続けるためにはリアクションが大切。一言感想(That’s　nice.　Great.)，確かめ(Really?　Ok.)，繰り返し(Oh,you went shopping with your family.　Very nice.)，更に質問(How about you?)など大げさにならない程度に自然にリアクションを返す。まず教師がリアクションを！

◆＋αの情報を追加しよう

会話を楽しむコツの一つに，＋αの情報を付け足して返すと良い。児童が I like soccer. といったら，教師は I like soccer,too.　や Oh you like soccer.Who is your favorite player?等と返す。

④　無理のないステップを踏んだ授業

コミュニケーション活動に向けて，無理のないステップを踏んだ指導を！！

いくら目的・場面・状況を意識して必然性を持たせても，発語に抵抗があったり，個人差があったり…
そこで，コミュニケーション活動までのもっていき方を４ステップで考えていく。適切な教材を取り入れながら，次のようなスモールステップで少しずつ指導していくことで，少しでも自信をもってコミュニケーションを図れるようにしたい。

指導の４ステップ	活動内容
インプット	★音声による情報で児童に与える。デジタル教材の音源，教師が英語で子どもに話しかける　など。 【聞く活動】
気付き	★イラストや写真などの視覚情報，教師が示すジェスチャーなど具体的な情報を与え，意味を推測させる。 【聞く活動】
慣れ	★何度もゲームや歌，チャンツをくり返し，音声に触れたり口に出したりし自信を持たせる。 【聞く活動・話す活動】
アウトプット	★音声に十分触れさせて，表現に慣れ親しんでから発話を促す。 ★聞いたり話したりして，十分に慣れ親しんだ単語や表現を確認る形で，読む，書く活動を行う。 【聞く活動・話す活動・　読む活動（5・6年）・　書く活動（5・6年）】

新教材の各活動の特徴とその意義と関連付けられる。

ステップ	内容	新教材ので活動	活動の目的や注意点
インプット・気付き	教師発話・リスニング活動	<u>Let’s listen　Small talk</u> <u>Let’s　Watch＆Think</u>	教師の英語，リスニング活動，ALT とのやりとりの中で，単語や表現の音声に何度も触れさせ，意味に気付かせる。
慣れ	ゲーム・チャンツ・歌	Let’s　Chant <u>Let’s　Play</u> Let’s　Sing	ゲーム，チャンツ，歌で，新しい単語や表現の音声に何度もくり返し触れさせ，口慣らしをする。
アウトプット	コミュニケーション活動	Let’s　Talk <u>Activity</u>	話す（やりとり・発表）活動を通して，慣れ親しんだ単語や表現を，実際のコミュニケーション活動の中で使わせる。
	文字指導(読む・書く)	<u>Let’s　Read　&Watch</u> ワークシート	聞く話す中で十分に音声に慣れ親しんだ単語や表現の文字を確認するような形で，読んだり書き写したりする。

※<u>太字</u>が言語活動となり得るもの。それ以外は練習。そのほかにも新教材の活動として

「Jingle」「Sounds and Letters」「<u>Let’s Read and Write</u>」「<u>Story Time</u>」　がある。

常に問いかけよう！

□「言語活動と言えるか」(英語で自分の考えや気持ちを伝え合う活動)
□「コミュニケーションの目的・場面・状況が明確であるか」
□「児童が誰に何のために気持ちを伝え合うかを意識できる場面設定や題材か」
□「本物のやりとりができるか」
□「児童にとって興味関心のある題材か」
□「思考している場面があるか」
□「この言語活動は単元目標達成につながるか」
□「単元の中でどこで仕掛けていくか」

「必然性のある」言語活動の設定

(2)学び合いという視点で

① 「見方・考え方」を働かせた活動

見方・考え方を働かせるとは…

見方・考え方２
情報や自分の考えなどを形成，整理，再構築すること。

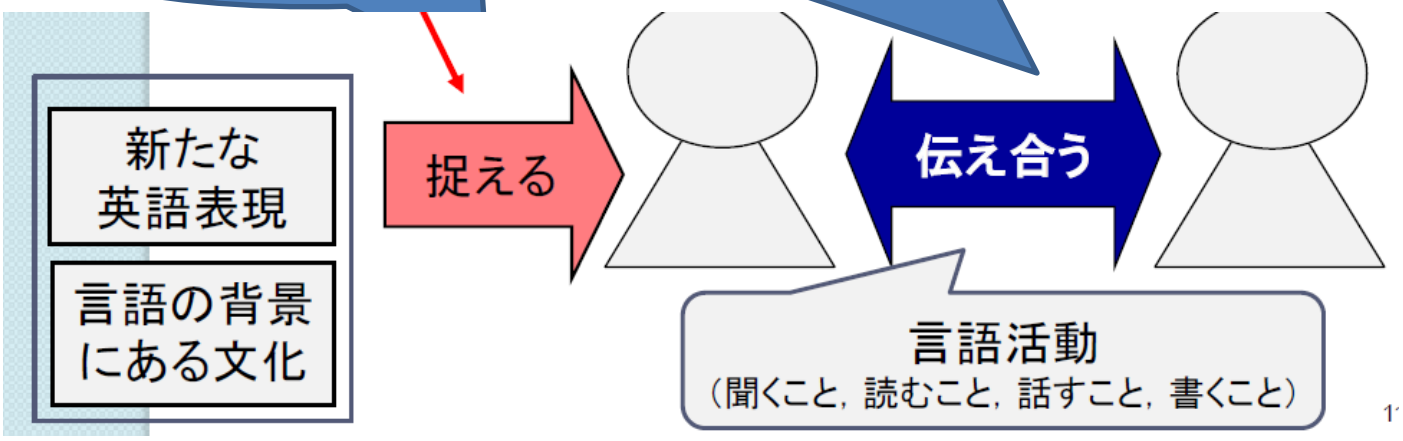
目的・場面・状況に応じて　適切な言語材料を使って

・知らなかった情報に気付き，取り出す。
（Imformation gap 与える）

・既習事項と関連付けて自分の考えを持つ。

・自分の考えを様々な方法で発信したり表現したりする。または、
・相手が聞きたいことを考え，理解しやすいように伝える。

見方・考え方１
外国語やその背景にある文化を，
社会を世界や社会，他者との関わりに着目して捉え，



②　コミュニケーションにおけるポイント

コミュニケーションの中で意識させる3つのポイント

1ゆっくり，はっきり話す（伝える）

2聞き返す，くり返す（受けとめる）

3会話のはじめと終わり（かかわり合う）

コミュニケーションの中で何を意識させるべきか。

コミュニケーションをする場面では，必ず「伝える」人，「受けとめる」人がいて，その両者が，うまく「かかわり合う」ことが必要である。

外国語教育でも国語科と同じように，「相手意識」や「目的意識」などの言語意識の視点で捉え，上記の３点にポイントを絞り，児童に意識にさせてみたらどうかと考えた。

1「ゆっくり，はっきり話す」

「ゆっくりはっきり」と話された際に，聞き取ったり分かったりすることが目標とされている外国語教育において，「ゆっくりはっきり」話し，伝えたい内容が「相手に伝わること」が，一番大切にしたいことであると考える。

発達段階に応じて，自分の思いをより正確に伝えるために，「ジェスチャー」や表情を手がかりとすることも含めて考えていきたい。

2「聞き返す，くり返す」

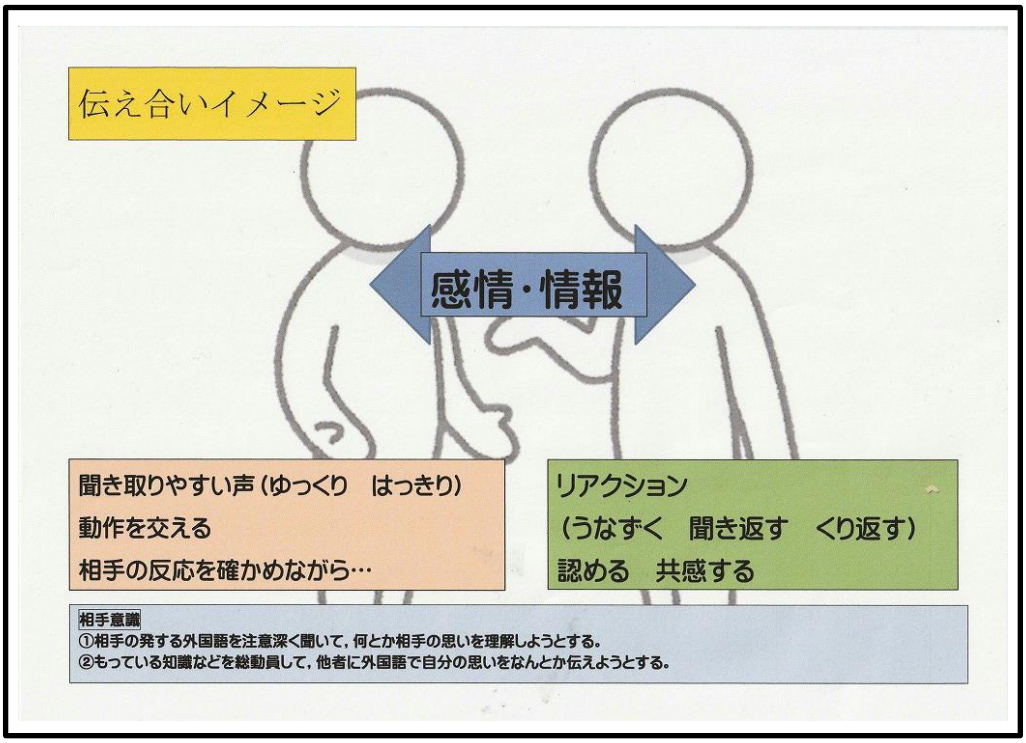
相手の言った言葉を「聞き返す」「くり返す」ことで，よりコミュニケーションが円滑になると考える。

相手の言ったことに反応することが大切という考えのもと，「相づち」を打ったり，「合いの手」を入れたりすることも大変有効であろう。中学年は，まずは「うなずく」ことから始めていきたい。

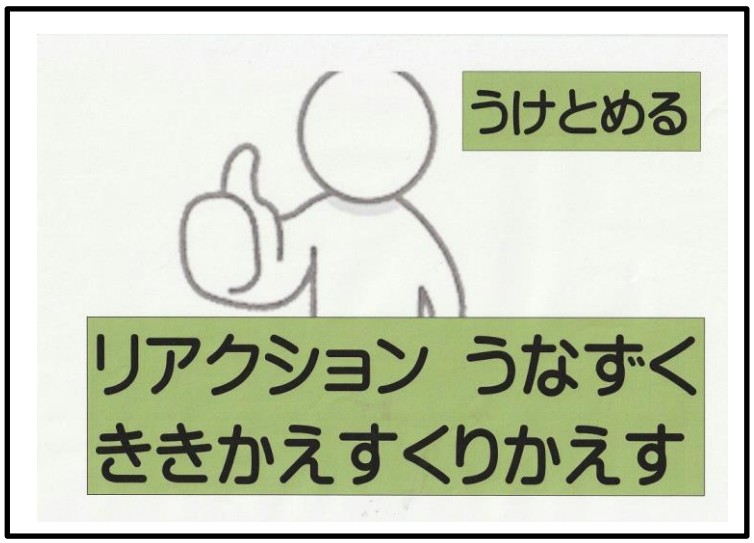
3「会話のはじめと終わり」

コミュニケーションの目的は，単に要点のみを伝えるだけではない。その意味で人との関わり合いも含めて考えるならば，挨拶は不可欠なコミュニケーションとなり得る。日本語の手紙などの書き方にも見られるように，文頭，文末などの形式的なものは，その人との関わり合いの中で，大切な部分である。

コミュニケーションを取る相手に対して，まず「Hello」→「本題」→最後に，「Thank　you」or「See　you」で結ぶ。これを，外国語を話す文化のコミュニケーションツールの一つとして意識していきたい。


伝え合いイメージ
感情・情報
聞き取りやすい声（ゆっくり　はっきり）
動作を交える
相手の反応を確かめながら…
リアクション
（うなずく　聞き返す　くり返す）
認める　共感する
相手意識
①相手の発する外国語を注意深く聞いて，何とか相手の思いを理解しようとする。
②もっている知識などを総動員して，他者に外国語で自分の思いをなんとか伝えようとする。

つたえる
ゆっくり　はっきり
ジェスチャー


うけとめる
リアクション　うなずく
ききかえすくりかえす

かかわりあい
会話のはじめとおわり

【その３】評価のスタイル

(3) ふり返りカードの活用

ふりかえりカードの統一

・３，４年は，評価項目を統一したカードを使用して振り返りを行う。
・５，６年は，授業ごとに評価項目を示し，その内容について振り返りを行う。

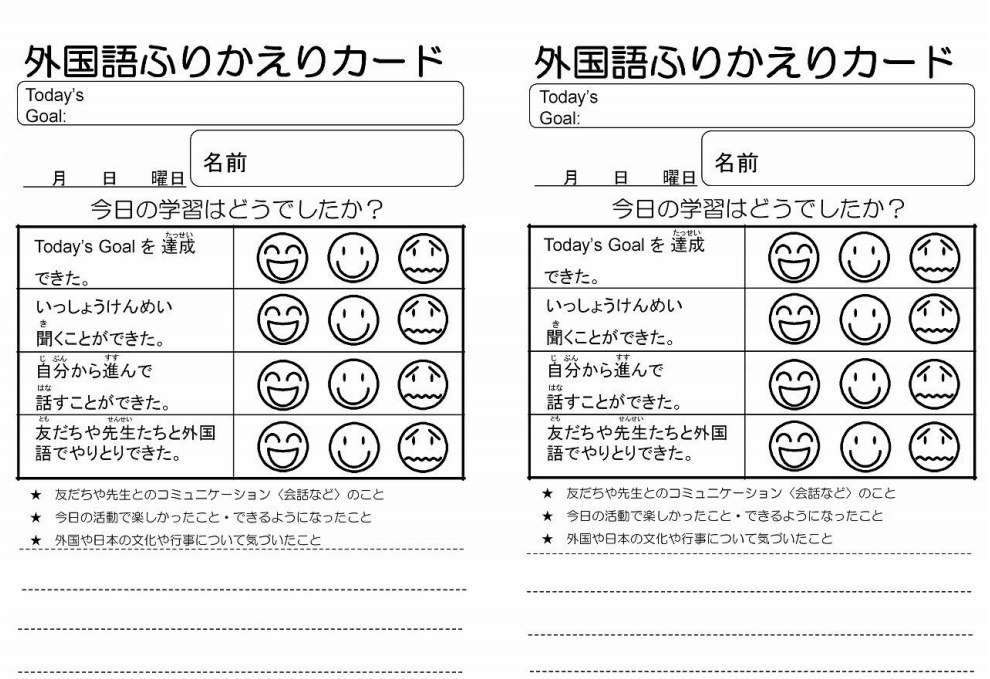
３，４年ふり返りカード

授業に臨む上で，児童に期待する姿

・外国語に慣れ親しみ，様々な活動に興味関心を持つことができる（**主体的に学ぶ態度**）
・コミュニケーションを図り，学び合うことができる（**人と関わり学び合う態度**）
・自分の思いを伝えられ，達成感を感じられることができる（**自己実現しようとする態度**）

を児童にわかりやすくちりばめた。

毎時間，この項目内容について振り返ることで，それぞれを意識できるようになることも狙っている。また，最後に学習感想を書くことで，その時間の自分を振り返ったり，教師が次時の学習計画の改善に役立てたりする。



外国語ふりかえりカード

Today's Goal:

月　日　曜日　名前

今日の学習はどうでしたか？

Today's Goal を達成できた。	
いっしょうけんめい聞くことができた。	
自分から進んで話すことができた。	
友だちや先生たちと外国語でやりとりできた。	

★ 友だちや先生とのコミュニケーション〈会話など〉のこと
★ 今日の活動で楽しかったこと・できるようになったこと
★ 外国や日本の文化や行事について気づいたこと

外国語ふりかえりカード

Today's Goal:

月　日　曜日　名前

今日の学習はどうでしたか？

Today's Goal を達成できた。	
いっしょうけんめい聞くことができた。	
自分から進んで話すことができた。	
友だちや先生たちと外国語でやりとりできた。	

★ 友だちや先生とのコミュニケーション〈会話など〉のこと
★ 今日の活動で楽しかったこと・できるようになったこと
★ 外国や日本の文化や行事について気づいたこと

５，６年ふり返りカード

５，６年生は，何ができるようになればよいか，具体的な項目を示している。
そうすることで，目標を子どもと教師が共通理解した上で授業を進めることができる。
また，教師も子どもも同じ観点で見取ったり自己評価ができ，効果的で効率的な評価にもつながる。

	よくできた	できた	あまりできなかった
・将来について，話の内容がわかった	大まかな内容がわかった	ヒントで内容がわかった	いくつか英語が聞きとれた
・どんな職業につきたいかたずねたり，答えたりすることができた	理由も含めてたずねたり答えたりできた	たずねたり，答えたりすることができた	英語の言い方に慣れてない

外国語　ふりかえりシート

Grade	Class	Name

月	日	Unit	
Today's Goal			

○授業を振り返ろう	よくできた	できた	あまりできなかった
・			
・			

○感想　わかった・自信が持てた・気がついた・自分のよさを知った・友達のよさを知った
友達の姿から「なるほど」と思った
もっと知りたいこと，やってみたいことが見つかった

※教師が指導の見取りをする方法としては，次のようなものがある。

- 子どもたちのパフォーマンスによる見取り
- ワークシートを用いた見取り
- ふりかえりシートを用いた見取り
- 自己評価による見取り
- 友だち同士での相互評価による見取り
- ルーブリックを用いた見取り

【その 4】学習環境のスタイル

(1) 外国語活動室

・外国語活動教室を様々なアクティビティに対応できるように整備する。
コミュニケーションにつながる環境づくりを行う。
→別途詳しく紹介

(2) 板書

1時間の流れ

本時の目標

やりとりの例

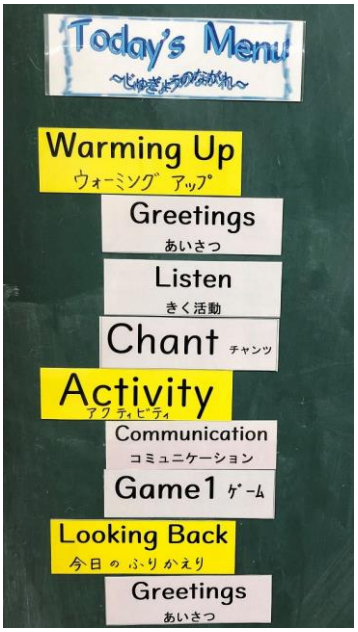
コミュニケーションポイント

その他

単元計画

適切な反応の例

(3) メニュープレートの提示



３つの学習過程
Warming up
Main Activity
Looking Back

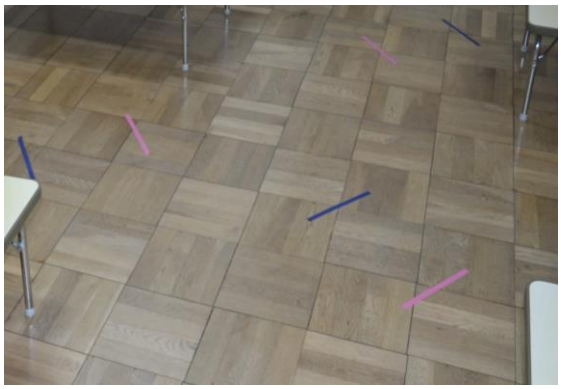
それぞれの学習過程の中の活動
Greeting
Review
Practice
Listen
Chant
Sing
Watch&Think
Activity
Communication
Game
Story telling
Small talk
Read
Write
Story time

環境づくり

外国語活動室の整備

どの学年にも対応できるような学習室の整備

固定の机いすを取り除き，低テーブルを使ったり，丸いすを使ったりするなど学習内容により柔軟に対応できるようにした。ユニバーサルデザインの視点から教室前面の掲示物は最小限に減らした。



立ち位置を示したテープ

対話の学習で，混み合って相手を探しにくくなる状況を緩和するため立ち位置を示した。指導者もやり取りの様子が見通せるようになった。

やり取りを支援する掲示

どの学年でも使えるワードや，やり取りの中で使えるフレーズを，教室前面に掲示した。

必要に応じ，ホワイトボードで隠す。

ホワイトボードの裏の工夫

ホワイトボードの裏面に「Today’s Goal」などの国案掲示用のワードを収納した。

教材をユニットごとに収納

教材をユニットごとに収納し,すぐに使えるようにした。教室背面壁は、学年ごとに区切り,必要な掲示をしている。

課題

5.6 年生の「書く学習」に対応できるように移動式の机を入れるなどしていくことも考えられる。

平成３１年度　校内研究アンケート

1　研究テーマ・サブテーマとその設定の理由について
　適切であったか。

進んで考え　豊かに表現する子どもの育成 ～伝え合う必然性のある言語活動を通して～

○よい。（３）
○研究主題，サブテーマともに適切だった。特にサブテーマの「伝え合う必然性のある」というところが外国語活動の今日的課題の追究となっていて良かったと思います。
○「伝え合う必然性」を常に意識し，課題設定をすることが，児童の「進んで」活動に取り組むことにつながっていた。（適切であったと思う。）
○サブテーマの伝え合う必然性というところが，分かりやすくてよかったです。
○教科・活動ともに本質をとらえるテーマであったと思う。
○良い。必然性が大切であることを学び，それを踏まえて授業実践ができたことにより，今後の授業を考える上でとても良い研究ができたと感じています。
○目的・場面・状況を意識した言語活動に焦点を当てており，適切であった。
○昨年度のものから継続し改良したものでよかった。
○昨年度のテーマを継続・改良したもので分かりやすかった。
○研究主題，サブテーマともによかった。サブテーマの「伝え合う必然性」というところが難しかったが，必要なところなのだと感じた。
○外国語での伝え合う必然性は，大変難しいテーマだと感じました。しかし，６年生が具体的なアプローチをしている研究を目の当たりにして，部会でいろいろな方法を模索できたことは大変学ぶことが多かったです。

～研究テーマ・サブテーマについて～
　昨年度の課題を受けて，「実際に英語を用いて」「互いの考えや気持ちを伝え合う」言語活動を，より具体的に絞って焦点化したサブテーマであったが，概ね良いという意見が多く寄せられた。
　「伝え合う必然性」の捉え方は確かに難しく，最初はどこまで必然性を追い求めるべきなのか迷ったが，直山視学官からの「子どもの思考に合ったもので学年の発達段階に応じた必然性の設定」を行えばよいというご指導により，イメージしやすくなった。児童が意欲的にコミュニケーションを行う鍵であると考え，今後の外国語教育の中でも伝え合う必然性のある言語活動を大切にしていきたい。

2　研究の目標についてどうであったか。

伝え合う必然性のある言語活動を仕組むことで，主体的にコミュニケーションを図ろうとする(進んで考え，表現しようとする)児童を育む授業の在り方を明らかにする。

○よい。（５）
○目標がわかりやすく，また，実際の授業にあっていたので取り組みやすかった。
○英語学習において，「必然性のある英語活動」が大切なので，適切だった。
○ただ活動するのではなく，伝えあう必然性のある言語活動を仕組むことで，児童が目的意識を持ち，「伝えたい」「言いたい」という気持ちを持って取り組めるので，よかったと思う。
○必然性のある言語活動を仕組むことによって，児童が意欲的に取り組む姿がみられた。
○この目標のもと指導案検討をし，活動や学習内容を組み立てていくことで，児童が意欲的に活動することができた。
○外国語でも積み重ねが，主体的なコミュニケーンにつながっていました。単発ユニットだけでは，とても主体的な必然性につながらないことがわかりました。
○伝え合う必然性をもつために，本物のやりとりをどう単元に仕組むか，考える姿勢を担任がもつことができました。目標が分かりやすくてよかったです。

～目標について～

単元計画の際，「伝え合う必然性」をどこにどのように位置づけ仕組んでいくか考えることにより，授業がぶれることなく進められた。また，それにより，児童が意欲的に活動できたという意見が多かった。①コミュニケーションの目的や場面，状況を明確にし，教師と児童がそれを共有していること，②児童が誰に何のために自分の考えや気持ちを伝え合うかを十分に意識できる場面設定や題材であることの２点を大切にした授業づくりが行われていたと考える。併せて，目的・場面・状況を意識する際，それが，児童自身の考えや気持ちを伝えたくなる「本物のやりとり」につながるかどうかを考えることで，さらに「伝え合う必然性ある言語活動」を捉えやすくなると感じた。

３　目指す子ども像と育てたい力とその手立てとしての研究の視点はどうであったか。

目指す子ども像と育てたい力

言語活動を通して

○外国語に慣れ親しみ，様々な活動に興味関心を持てる子ども（主体的に学ぶ力）
○人とコミュニケーションを図り，学び合う子ども(相手意識を持ち，人と関わり学び合う力)
○自分の思いを伝えられ，達成感を感じられる子ども(自己実現しようとする力)

研究の視点(目指す子どもに近づくための手立て)

（１)目的・場面・状況を意識した言語活動
（２)目標を見据えた指導
（３)本物のやり取りを大切にした授業
（４)無理のないステップを踏んだ授業

○適切だった。（３）
○研究の目標を具体的な視点で３点示されていて，特に「相手意識を保ち，人と関わり

学び合う姿」からコミュニケーションを図らせようとする目標が明確でした。
○評価と対応していたので，子どもの活動をみとりやすかった。
○目的・場面・状況を意識した言語活動に一番の力点をおいたことは良かったと思います。
○「ほんもののやりとり」という提示が研究主任からあったことで，イメージが持ちやすかった。
○外国語を介して，自分の意志をもたせる，相手に伝えようとする，相手の想いを受け取る，学びあうなどの力をつけるための手立てを研究していくことができた。
○研究の視点がはっきりしていたことで，授業作りに役立てやすかったのだろうと思う。
○良い。具体的でわかりやすい視点だったので，研究に取り組みやすかった。
○目標を達成するため視点が分かりやすく提示してあったので活動する際に活かしやすかった。
○研究の視点が分かりやすく，授業を組み立てる上でよい指標になりました。
○育てたい力を育むためのポイントが絞られており，ねらいにせまりやすかったと思う。
○手立てが，目標を達成するためのものであり，かつ明確で分かりやすくてよかった。通信表の評価と合わせて，難しい視点です。教科となった場合は，どのような視点が見取りとしてし易いのか考えさせられました。

～目指す子ども像と研究の視点について～

目指す子ども像と目指す子ども像に近づくための手立てとしての研究の視点は，共にイメージしやすく，授業づくりに役だったという意見であった。

目標である「主体的にコミュニケーションを図ろうとする児童」の姿を具体的に３つの姿で提示した事により，どのような力を児童に付けていきたいかが明確になった。またその姿を見取ることができるよう，内容を振り返りカードの評価項目と対応させていたことも良かった。

４つの視点は，全てが関わり合っているもので，身に付けたい力を育むために，伝え合う必然性のある言語活動を仕組む上でどれも重要な視点であったと言える。
「誰に向かって」「何のために」「どのような状況・場面で」を意識した言語活動に向けて，目標を見据えた指導を行い，児童同士が考え，伝え合う事のできる本物のやりとりのある授業づくりを大切にしてきた。

一人一実践として，先生方一人一人がデザインされた授業の単元計画には，４つの視点がもりこまれていた。単元の目標に対して，どのような「目的・場面・状況を意識した言語活動」を設定したか，単元の目標を見据えたバックワードデザインをどのように取り入れたか，どのように本物のやりとりを作り出したか，どのようなステップを踏んでコミュニケーションにつなげたか，先生方の丁寧な指導が表れていた。

4　研究の方法はどうであったか。

内容	方法
(1)授業づくりと実践 ①「伝え合う必然性ある言語活動」の具体例を探る。 ②研究の視点(1)～(4)を取り入れる。 ③新教材の特性を生かす。 ④資質・能力の３つの柱 「知識・技能」 「思考力・判断力・表現力等」 「学びに向かう力・人間性等」 の関係性を取り入れる。	(1)について ・指導主事を招聘 ・全体研究会／ブロック研究会 ・一人一実践 ・低学年は毎週水曜日おはようタイムを外国語活動の「時間にあてる。また給食・清掃の時間帯に ALT とふれあうことで，日常的に，慣れ親しめる機会を設けていく。
(2)学びの支えになる教具の作成と環境づくり ①Unit ごとに必要な教具の作成 ②外国語活動教室 ③校内表示	(2)について ・機能別ブロック研究会にて作成，整理 ・授業で作成した物のストック
(3)教師の資質向上	(3)について ・校内における外国語の授業への積極的な参観 ・研修会への参加 ・クラスルームイングリッシュの積極的な活用 ・ALT との TT 実践，打ち合わせ
(4)評価 ①パフォーマンス評価のやり方 ②ルーブリックの作成	(4)について ・実践しながら UNIT ごとに作りためていく。

○よい。（２）
○研究の内容と方法があっていてやりやすかった。
○全体的には，あらゆる方向からのアプローチがありよかったと思います。

(1)について
○単元の中に研究の視点が取り入れられている点が良かったと思います。
評価については，先行研究を理解しながら進められれば良かったが，評価だけでも十分なボリュームのため今年はこれで良かったと思います。
○指導主事による研修がベースになり，具体的な授業研究ができ有意義であった。
○指導主事や講師の先生からの指導をいただくことで，外国語活動や外国語科の授業についての研究を深めることができた。
○指導主事との学習会では，大変に勉強になった。
○指導主事に来ていただいての学習する機会が多く，大変勉強になった。
○指導主事を招いて学習する機会が多く，大変勉強になった。
○桑畑先生や直山先生，大里先生とたくさんの先生方から話を聞く機会があり，大変勉強になりました。
○学ぶことばかりで，膨大な資料ありがとうございました。

○低学年も，おはようタイムの活用により，外国語活動の研究を進めることができ，児童が外国語への興味関心を深めることができた。

(2)について
○今年度，Unit ごとに統一した必要な教材を用意できてよかった。
○授業で作成したものがストックされていると，次に使うときにすぐにできるので，よかった。
○分担を決め，ＵＮＩＴごとの教材を作成することは有効であると感じる。
○授業で作成したものがストックされていたので有り難かった。しかし教材が全くない単元もあり来年度はどの単元にも教材がそろっているとやりやすいと感じた。
▲(2)学びの支えになる教具の作成と環境づくりでは，必要な教具をユニットごとに揃えたが，いざ授業をやってみると足りないものがあることや，もっと欲しいものがあることに気付き，スムースに授業を行えないことがあった。また，外国語活動室での学習は，直接床に座ることが学習活動を行う上でネックになると感じたので，椅子がある環境の方が良いのかもしれないと思いました。

～研究の方法について～
(1)について
今年度は多くの指導主事がご来校くださった。その中でご講義いただいたり，指導案の相談にのっていただいたり，授業を参観しご指導していただいたりと,大変貴重な機会を得ることができた。日々の授業の中で活かせる内容ばかりで，一人一人が，それぞれの授業に合った形で，教えていただいたことを実践している様子がうかがえた。
低学年での活動は，昨年度から行っている。外国語活動及び外国語科の研究というと，どうしても低学年の先生方は関わりづらくなってしまう。実践あっての研究にするため今年度も継続した。児童にとっては，「触れる・慣れる・楽しむ」を目的とした，３年生の外国語活動の抵抗感軽減につながるものになったと思う。
(2)について
教具については，来年度のために再度担当学年で確認をしておきたい。外国語活動教室は，良く整備していただき掲示類も充実し外国語を学ぶ雰囲気の教室だったが，やはり椅子がないので落ち着いた学習からかけ離れてしまった。せっかく場所が確保されている状態なので，多くのクラスで使えるような学習環境を整えたい。
(3)について
クラスをもちながら，他クラスの授業を参観することは難しかったと思う。公開の授業者お二人には大変な負担を掛けてしまったが，お二人の授業からは日々の授業の中で取り入れたいエッセンスがたくさんちりばめられていた。とくに，子ども同士の学び合いが素晴らしかったように思う。子ども同士の本物のやりとりの中で，自分の思いや考えを何とか言葉という形にし，伝えよう，それを知ろうとする姿が見られた。子ども達がただのリピートではなく，メタ認知を働かせ，自分たちで気付き，思考しながらやりとりする態度が育ち，子ども同士で高め合っているように感じた。ともに研究し，試行錯誤を重ねた結果の本番を間近で参観出来たことは,この 1 年間の研究の集大成として，私たち一人一人に大きな財産を残すことになったと思う。

4　　研究組織については，適当であったか。

○適切であった。（９）
○組織研究は，研究討議しやすい内容や方法で適切だった。特に指導案検討についても様々な意見が出されて有意義だったと思います。
○低学年や教務の先生方とともに研究を進められたことは，新しい視点を与えてもらう機会になり有効だった。
○研究討議しやすく，よかった。指導案検討も適切に行えた。
○３年以上は，中学年・高学年でいいです。低学年がかかわる場合は，臨機応変で加わってもらえればいいと思います。
○低学年の先生にも教務の先生にも，様々な目で指導案検討をしていただけたのは，とてもよかったです。
▲授業者の先生に多くの負担がいってしまったことが，申し訳なかったです。

～研究組織について～

昨年同様２つのブロックに分かれ，ブロック長を中心に研究を進めた。中学年・高学年のメンバーに加え，低学年や教務の先生方というメンバー構成は，様々な立場の視点で意見を出し合え，有意義な研究となった。

今年は，外国語の授業を行う上での環境を整えるために，機能別部会を併設した。活動時間は多く取れなかったので，作業内容の確認等，手が行き届かない部分もあった。

ブロック研究，機能別部会，それぞれ中心になり周りを引っ張ってくださったブロック長，部会長の先生方ありがとうございました。

5 研究の計画・進め方については，どうであったか。

○よい。（６）
○計画立てがきちんとされていることを基盤にしながらも，柔軟に進行したことは適切だったと思います。
○計画・方法が研究の進み方に合っており，痒い所に手が届く感じで研究が進めやすかった。
○２月の授業を目標に掲げながらも，日々の外国語活動を重視した計画立てなされ，よかった。
○無理なく研究を進めることができた。
○研究主任を中心に，学びの多い研究会であった。
○研究主任が丁寧にリーダーシップを取ってくださり，計画的に研究を進めることができた。
○研究主任が丁寧に準備をしてくださったので，とても円滑に進み，よかった。
○外部講師を多数呼んでいただき，それぞれから学ぶ機会がありがたかったです。

～研究の計画・進め方について～

先生方が臨機応変に動いてくださったおかげで，順調に進めることできた。２月の公開に向けての様々な縛りが多い中，指導案検討や準備，作業がメインになってしまったが，地道な日々の授業が支えとなり，有意義な研究となったと思う。

だが，校内研としての時間は限られていたため，授業者の先生方への負担が多くなってしまったことが申し訳なかった。私たち一人一人が与えられた時間をより有効に効率よく使うよう意識して臨んでいくことが大切だと考える。来年度は，さらに限られた時間の中での研究となるため，効率的に研究を進めていく必要がある。

６　研究の成果と課題と思われる点は何か。

【研修と理論研究について】など

○日々の外国語活動の授業と指導が，地道に行われていたことが校内研究を支えるという点で良かったと思います。
○本校の研究について，指導主事に具体的に指導いただけたのはよかった。
○直山先生はじめ多くの講師に指導いただいた事によって理論研究を深めることができた。

～研修と理論研究について～

直山視学官はじめ多くの先生方から直々にご指導いただいた。自らの実践を顧みながら目の前の課題を一つ一つクリアしていくことができたと感じる。

【授業づくり相川スタイルについて】

①学習過程のスタイル
・学習の流れと ALT との役割分担
・コミュニケーション活動に至る無理のないステップの取り入れ

○スタイルという形で提案されたことは，毎時の授業を作るうえで助けられた。
○相川スタイルを使って指導案をつくると，ＡＬＴとお互いの役割がはっきりして，良いと思います。ダン先生も自分の役割を確認しながら，授業に臨んでくれました。
▲ALT との役割分担がうまくできず，ほぼ自分の方で授業を進めてしまい，英語表現や発音を教えてもらうだけになってしまった授業が多かった。自分の授業スタイルを見直し，ALT とお互いの役割を確認しながら授業を行っていきたい。
▲普段の授業を観察した立場から，Greeting から次のステップの月日・曜日・時間割などは，パターンの繰り返しで定着を図るねらいもあったと思いますが，既習事項を使って各回バリエーションのある内容にしても良いと感じました。
○ペアでのコミュニケーション活動に向けて，ALT とデモンストレーションを行ったり，子どもたちと英語表現を何度も確認したりしてスモールステップを踏むことができた。
○この大切を痛感した。「慣れ親しみ」で，繰り返し繰り返しインプットしてくことが，豊かなやりとりにつながる。

～相川スタイル　学習過程のスタイルについて～

昨年度の課題として授業のパターン化が挙げられた。そこで学習の流れや ALT との役割分担を含めたマニュアルを作成し，相川スタイルとして提案した。それぞれの実践を元に，このスタイルを基盤としながら，クラスの実態に合わせ，バリエーションを増やしたり修正したりしてほしい。

教師と ALT が連携してそれぞれの役割の効果を上げるためには，それぞれの役割分担が明確になっている必要がある。それぞれ，再度役割を確認し，授業に臨みたい。

②指導方法のスタイル

・伝え合う必然性のある言語活動という視点で

①目的・場面・状況を意識した言語活動（相手意識・目的意識）

②目標を見据えた指導

③本物のやりとりを大切にした授業　（既有知識，新しい知識・技能の活用）

・学びあいという視点で

①見方・考え方を働かせた活動（学び合いの考え方）

②コミュニケーションにおけるポイント（学び合いの技能）

○普段の授業を観察した立場から，「伝え合う必然性のある言語活動」を成立させるために，様々な工夫がされていることが見とれました。

○６年生は，伝え合う必然性のある言語活動という視点で，本物のやりとりを大切にした授業を意識してきた。直山先生に，「ライブ感」という言葉で指導いただいた。言葉によるコミュニケーションを通して，相手を知ることができる授業を仕組んでいくということが，課題として明らかになりました。

○子供たちの実態に合わせた必然性ある言語活動を仕組むことで，学習が本物になることを実感した。

○お店ごっこをする際には，自分が欲しい食材が売り切れていることも想定し，お店　役とお客役とでジェスチャーを交えて「Sorry, Nothing.」などの簡単な英語でやり取りをさせることができた。

○伝え合い，学び合う姿勢が育ったことで外国語に対する苦手意識を持った児童が少なくなったように感じる。児童が興味関心を持ち，主体的に学べる指導方法をこれからも大切にしてくと良いと思う。

▲「本物のやりとり」というと，「何か大きなことをやらなくては！」と考えてしまい，つい内容が盛りだくさんになってしまったことが課題である。外国語活動としては，あまり欲張らずに子供たちに相手意識・目的意識をもたせるためにどのようなアプローチをするかを考え，無理のない計画を立てていきたい。

▲教科書の内容表記・表現が，わかりにくい箇所や，ボリュームが多いと感じられる単元があったと思います。そのために，それを消化するのにかなり大変で，「学び合う」という視点を取り入れることが大変だったのではないかと感じました。

～相川スタイル　指導方法のスタイルについて～

この１年で一人一人が試行錯誤しながら相川なりの指導方法が確立されてきたように感じる。「伝え合う必然性のある言語活動」を仕組むということは，そこには児童が「伝えたい」「聞きたい」感情が自然に出てくることである。先生方のアンケート結果を見ると，「伝え合う必然性のある言語活動」により，本物のやりとりにつながった例が多数見て取れる。Information gap のある，「伝え合う」ことへの意欲が高まるような場面設定がされていたのだと考える。先日の公開授業のように，英語というツールを通して，自分の思いを伝えたり，相手の思いを知ったりし，パターン練習ではない自由度の高いコミュニケーションにつなげられることが理想である。たくさんのことを詰め込みすぎず，インプットし，発話に慣れてからのアウトプットというスモールステップを大切に指導していきたい。

③評価のスタイル

・パフォーマンス評価について

・振り返りカード

○ALT に協力いただき，学期に１度くらい実施しました。評価規準は，単元の目標と照らし合わせて，ALT と設定しました。

○さらに研究を進めたい。

○やり取りの中での見取りの難しさを感じている。しかし，今年度は，昨年度の「まずは，やってみる。」からの流れを継いで，「相手意識と目的意識をはっきりさせた言語活動」についてを研究することでいっぱいであったし，深く研究ができたのでよかった。だから，評価については，今年度研究するのは難しいと思った。

振り返りカード

○振り返りカードは同じ形式を使い毎時間の振り返りができるのでよかった。

○児童が振り返りやすい学習形態が作られていたように思う。

▲振り返りカードは振り返りを記述することが苦手な児童は同じ感想になってしまうことが多かったので改善が必要だと感じた。

～相川スタイル　評価のスタイルについて～

パフォーマンス評価の在り方を研究し，ルーブリックを作成し活用してみたいという思いはあったが，そこまで手が回らなかった。今年度は主に，振り返りカードを用いた見取りを行ってきた。記述が同じ内容になってしまう場合は，振り返る視点がはっきりしていないことが考えられるため，どのような視点で書いたらよいか，教師が声掛けするだけでも変化が見られるのではないかと思う。また，評価の顔表記の色塗りに時間がかかってしまうため，チェックさせるだけにするなど，より効果的に時間を使えるような工夫が必要である。

６年生の振り返りカードの自己評価の項目は，単元全体を見据えた中でその時間の具体的な目標が書かれている。これを提示することで，その時間の目標を教師と児童

が共通理解した上で授業を進めることができる。教師も子どもも同じ観点で見取ったり自己評価したりできるため，大変効率的で効果的な評価の方法だと感じた。この６年生の実践を相川小の評価方法の一つとして取り入れていったらどうか。教師の指導改善，児童の学習改善双方につながる，まさに指導と評価の一体化を図れる評価方法だと思う。

来年度からは，いよいよ新学習指導要領の下での学習評価が行われることになる。一人一人が改善事項とその内容を理解し，学習評価を適切に行えるようにしていきたい。児童にどんな力を身に付けたいか教師が見通しをもち，指導と評価の計画を立てていくことが大切である。

④学習環境のスタイル
・板書
・メニュープレート

○外国語活動室については，地道に整備に努めていただきました。ご苦労に感謝します。
▲きちんと取り組むことができませんでした。

板書
○今年度は特に板書に力を入れて取り組みを行った。引き続きわかりやすく，最低限の情報を板書できるよう，今後も実践を積んでいきたい。
▲やり取りする順番や話す内容を全て板書してきたが，授業内容によっては書かない方が良い場合があったので，今後はその点を考えて板書したい。
▲読む・書くが入らない中学年における板書は，工夫の余地があると思う。より有効な方法を考えたい。

メニュープレート
○メニュープレートの提示は教師も児童も先を見通した学習ができ，とてもよかった。
○メニュープレートがたくさんあり，使いやすかった。用意していただきありがたかった。

～相川スタイル　学習環境のスタイルについて～

学習環境はかなり整ってきたと考える。だが，板書内容については，文字指導が必要ではない中学年の場合，より活動の助けになるような板書の仕方を工夫，検討する必要がある。

８　来年度の研究の中で，具体的にどのようなことに取り組んでいくべきか。
（外国語に関する内容，授業改善に関する内容，また対象教科や教科・授業外の取組，などもあれば，企画・案・要望・希望をお書きください。）

・管理職の立場から，校内研究会は，教員の力量形成を図る機会として，実践と理論を結びつなぐ大切な機会であると感じています。来年度からは，６０分という時間設定で行われますが，大切にしていきたいと思います。今年度のように積極的に外部講師の活用も図られると良いと思います。
・本年度の継続研究
・昨年度，今年度と外国語をやっているので，来年度も外国語を継続してやっていったらどうかと思う。
・今後も継続して外国語の研究に取り組み，方法や技術をさらに学びたい。
・昨年度・今年度と外国語をやっているので，来年度も外国語を継続してやっていったらどうかと思う。
・２年間外国語の研究をしたので，それ以外の内容を行う。
・他教科に取り組みたい。
・プログラミング学習
・プログラミング教育についても，実際の授業の中でどのように取り入れていくのか等，研究が必要ではないかとも思う。
・英語や道徳など，研究したいことはたくさんあります。
・教科が新設していく中で，「特別の教科である道徳」についても学びたいと思います。
・理科や社会など
・他教科になりますが，国語科の読み取りを楽しく深めていくための手立てやヒントを考えていく研究を行ってみたいと思いました。
・インクルーシブ教育に関わる研究
・教科書が一新するので，教科にこだわらない横断的にできる研究が望ましいです。

～来年度に向けて～
　来年度も，引き続き外国語教育について深めたいというご意見が３件，公開を終えることで一区切りと考え，外国語以外の事に取り組んでみたいというご意見が１０件であった。来年度は，いよいよ新学習指導要領の全面実施となる。少しずつ理解を深め，準備してきたことを，児童に反映させられるようにしたい。今の本校の実態や私たち教師に一番必要なものはなにかを考え，研究内容にかかわらず，主体的に研究を行い，省察的実践家としての研究を進めていきたい。

平成３１年度　研　究　同　人

校　　長	小宮山　　尚	４年１組	○◇岩　下　和　美
教　　頭	桐　山　賢　一	２組	小　澤　裕　紀
教務主任	乙　黒　誉　雅	５年１組	鷹　野　実　加
教務副主任	池　谷　佳　雄	２組	河　西　　浩
教　　務	手　塚　房　江	６年１組	弦　間　　文
	岡　田　みどり	２組	◇岩　間　一　郎
ひまわり学級	戸　島　智　世	養護教諭	高　鳥　隆　子
たんぽぽ学級	浅　利　佳　歩	事務主査	小田切　昌　江
１年１組	小　澤　彩　子	栄養教諭	萩　原　香　織
２組	保　坂　麻　衣	特別支援教育支援員	秋　山　　直
２年１組	小笠原　佐智子	学校司書	芦　澤　　彩
２組	丹　澤　麻理恵		
３年１組	◎保　坂　由　起		
２組	村　松　宏　美		

◎研究主任　○研究副主任　◇ブロック長